

上野原市デジタル田園都市構想総合戦略

上野原市みらい戦略2025-2030（案）

令和6年12月

目次

I 策定の背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	IV 上野原市みらい戦略 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
・策定の趣旨と策定期間・・・・・・・・・・	4	1 市民からの意見聴取 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
・本戦略の位置づけ・・・・・・・・・・	5	・策定フロー・・・・・・・・・・	44
(参考) 本戦略の構成・・・・・・・・・・	6	・市民アンケート結果・・・・・・・・・・	45
(参考) 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の概要・・	7	ー調査の目的、調査の概要	
(参考) 地域ビジョン及び重要施策分野の例・・・・・・・・	8	ー回答者の属性	
II 第2期総合戦略の評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9	ー住みやすさ	
・第2期総合戦略の検証フロー・・・・・・・・・・	10	ー今後の居留意向	
(参考) 第2期総合戦略における施策体系・・・・・・・・	11	ー市民の幸福度	
・目標人口について・・・・・・・・・・	12	ー幸せを感じる理由	
・人口動態(自然増減・社会増減)について・・・・・・・・	13	ー上野原市のおすすめ度	
・基本目標1について・・・・・・・・・・	14	ー結婚の状況	
・基本目標2について・・・・・・・・・・	15	ー見ている情報媒体の状況	
・基本目標3について・・・・・・・・・・	16	ー情報発信の状況	
・基本目標4について・・・・・・・・・・	17	ー地域活動への参加意欲	
・基本目標5について・・・・・・・・・・	18	ー市民協働に重要なこと	
(参考) 第2期総合戦略における事業の評価・・・・・・・・	19	ー上野原市の魅力を挙げられる数	
(参考) 第2期総合戦略における今後の事業の方向性・・	20	ー施策の重要度と満足度	
III 上野原市人口ビジョン(目標人口) ・・・・・・・・・・	21	・うえのはら未来会議(市民ワークショップ)・・・・・・・・	59
・第2期総合戦略における人口ビジョンと実績値・・	22	・市民団体・事業者等ヒアリング結果・・・・・・・・	63
・国(国立社会保障・人口問題研究所)の最新推計について	23	2 地域ビジョン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
(参考) 将来人口推計手法の概要・・・・・・・・	24	3 地域ビジョンの実現に向けた具体的な施策 ・・・・・・・・	73
・市独自の推計について(社人研との比較)・・・・・・・・	25	・人口動態からの課題・・・・・・・・・・	74
・市独自の推計について(年齢区分別)・・・・・・・・	26	・施策展開に向けた課題・・・・・・・・・・	75
・市民の人口減少に対する考え方(市民アンケートより)・・	27	・施策展開に向けた視点・・・・・・・・・・	76
・上野原市の目標人口に対する考え方・・・・・・・・	29	・施策の骨子(案)・・・・・・・・・・	77
・独自推計パターン別の推計比較・・・・・・・・	30	・基本戦略ごとのターゲット等の整理・・・・・・・・	78
・上野原市における目標人口・・・・・・・・	34	・各基本戦略と目標人口の関係・・・・・・・・	79
・独自推計パターン4の推計値詳細・・・・・・・・	35	・重点プログラム・・・・・・・・・・	80
		・基本戦略1 子育て・教育の循環・・・・・・・・	83
		・基本戦略2 人、仕事の循環・・・・・・・・	88
		・基本戦略3 暮らしの循環・・・・・・・・	95
		・デジタル実装・・・・・・・・・・	99

I 策定の背景

策定の趣旨

- 全国的な人口減少と東京一極集中に代表される大都市への人口移動を背景に、上野原市においても人口が減少傾向で推移しています。
- 少子高齢化を伴いながら進展する人口の急激な減少は、地域における経済活動やコミュニティ活動などの活力を衰退させ、ひいては、本市における安定した生活・暮らしや都市経営そのものの持続可能性が危惧されています。
- こうした状況の中で、本市では令和2年3月に「上野原市人口ビジョン」を見直し、長期的な将来人口として令和42年において目標総人口11,166人として将来展望を掲げるとともに、その実現に向けた「第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、様々な人口減少対策の取組を進めてきました。
- この「第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和6年度を計画最終年度としていることから、これまでの取組を切れ目なく次の「デジタル田園都市構想」へとつなげ、地理的な制約、年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず、誰もがデジタル化の恩恵を享受することで、豊かさを実感できる「誰一人取り残されない」社会の実現を目指した「上野原市デジタル田園都市構想総合戦略～上野原市みらい戦略～」を策定するものです。

策定期間

令和7（2025）年4月から令和12（2030）年3月を計画期間とします。

令和2年

令和7年

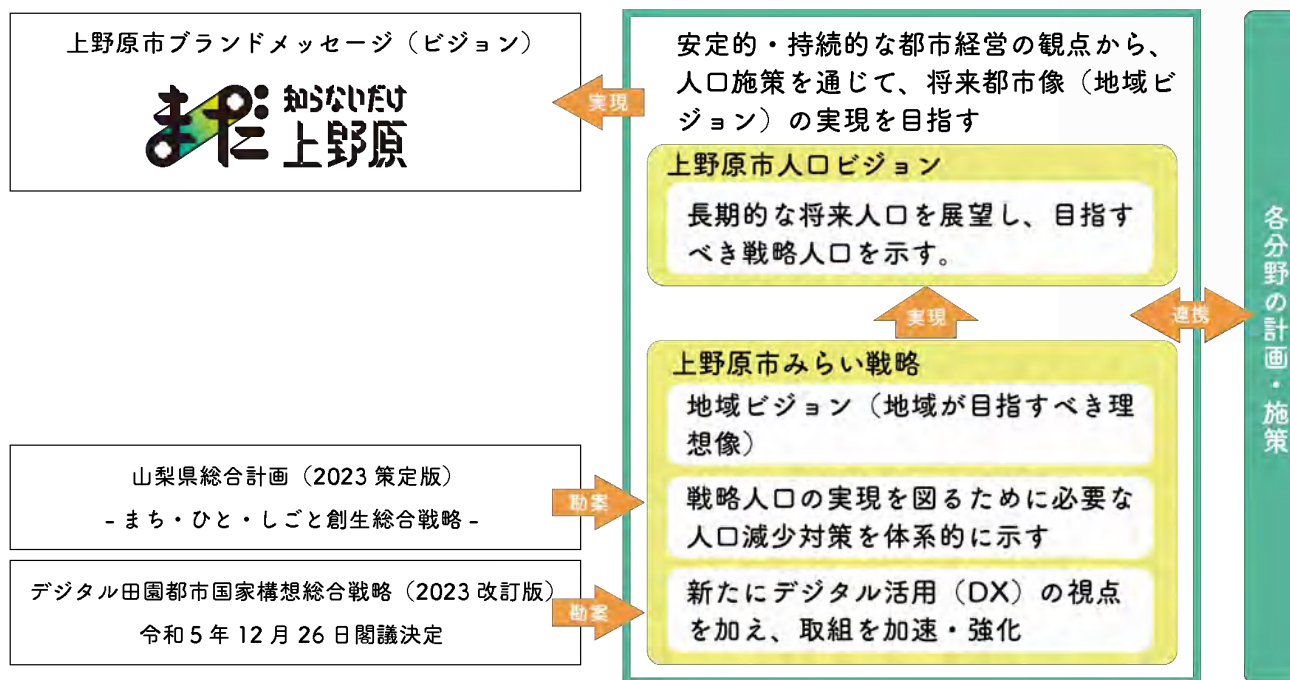
令和12年

第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

上野原市デジタル田園都市構想総合戦略
上野原市みらい戦略

本戦略の位置づけ

- 国は、令和4年12月に第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、新たに「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。
- 本市では、「まち・ひと・しごと創生法」第10条の規定に基づき、人口減少対策と将来にわたり活力あるまちづくりを推進するための目標や施策等をまとめた「上野原市デジタル田園都市構想総合戦略ー上野原みらい戦略ー」として位置づけを行います。
- この戦略は、本市の人口の現状分析と2045年を見据えた人口の将来展望を示す「人口ビジョン」と、人口ビジョンの将来展望を実現するため、今後5年間の具体的な施策・事業を取りまとめた「デジタル田園都市構想総合戦略」という2つの構成に分かれています。



(参考) 本戦略の構成について

地方版総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法第9条及び第10条に基づき策定されるものです。当該条文では、地方版総合戦略の内容として、①目標、②講ずべき施策に関する基本的方向、③講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項を規定しています。

○まち・ひと・しごと創生法（抄）

（都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第九条（略）

2 都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略は、おおむね次に掲げる事項について定めるものとする。

一 都道府県の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関する目標

二 都道府県の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、都道府県が講ずべき施策に関する基本的方向

三 前二号に掲げるもののほか、都道府県の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、都道府県が講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項

3 （略）

（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第十条（略）

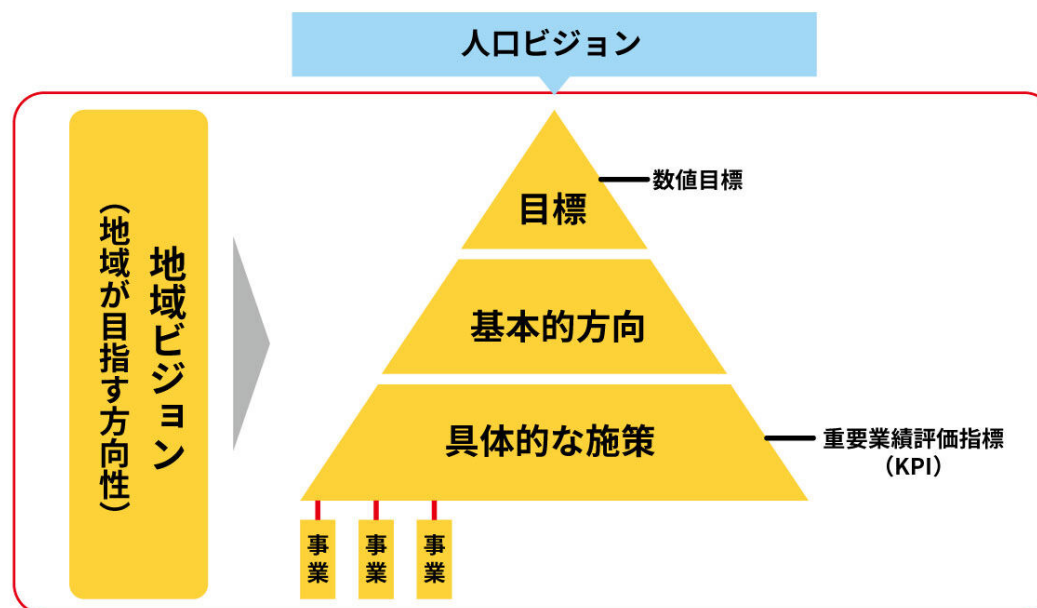
2 市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略は、おおむね次に掲げる事項について定めるものとする。

一 市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関する目標

二 市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、市町村が講ずべき施策に関する基本的方向

三 前二号に掲げるもののほか、市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、市町村が講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項

3 （略）



基本的考え方

- ・ テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中で、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指します。
- ・ デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を推進します。
- ・ これまでの地方創生の取組も、全国を取組から得られた成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが求められています。

施策の方向

(1) デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

- ① 地方に仕事をつくる
- ② 人の流れをつくる
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 魅力的な地域をつくる

(2) デジタル実装の基礎条件整備

- ① デジタル基盤の整備
- ② デジタル人材の育成・確保
- ③ 誰一人取り残されないための取組

▼デジタル田園都市国家構想の取組イメージ全体像



(参考) 地域ビジョン及び重要施策分野の例

○モデル地域ビジョンの例

【スマートシティ・スーパーシティ】

多様な分野に跨るデータ連携基盤の構築など、デジタル技術を活用して市民生活の質、都市活動の効率性の向上等地域の抱える様々な社会課題を高度に解決することにより、新たな価値の創出や持続可能な地域づくり・まちづくりの実現を図る地域。

【「デジ活」中山間地域】

中山間地域等において基幹産業である農林水産業の「仕事づくり」を軸として、教育、文化、医療・福祉等様々な産業分野と連携しながら、地域資源やデジタル技術を活用しつつ、社会課題解決・地域活性化に取り組む地域。

【大学を核とした産学官協創都市】

地方大学を拠点とした産学官連携を進め、大学発のイノベーションの創出やその社会実装に取り組む地域。

【SDGs 未来都市】

経済・社会・環境の三側面を統合した SDGs を原動力として地方創生に係る取組を行い、政策の全体最適化や地域の社会課題解決の加速化を図る地域。

【脱炭素先行地域】

民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴う CO2 排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域。

引用：地方版総合戦略の策定・効果検証の ための手引き(令和4年 12 月版)より

○重要施策分野の例

【地域交通のリ・デザイン】

MaaS 等のデジタル技術の活用等により、持続可能性と利便性の高い地域公共交通ネットワークを再構築し、移動の利便性の向上や外出機会の創出等を図る。

【地方創生スタートアップ】

地域における課題を解決し、地域発のイノベーションを創発するスタートアップを生み出す「スタートアップ・エコシステム」を核に、地方創生を推進する。

【地方創生テレワーク】

テレワークに関する課題を克服しつつ、活力ある地域づくりにつながる地方創生テレワークの導入・定着を一層推進する。

【地方公共団体間の連携によるこども政策】

医療と母子保健の連携などこども政策に関する分野横断的な関係者間の連携や、市区町村の垣根を越えて広域的に連携して行う結婚、子育てに関する取組を通じて、人口減少や少子化の抑制の取組を加速化する。

【教育 DX】

教育を中心に据え、DX 等を通じ魅力的な教育を展開することで地域の活性化に取り組む。

【住民に身近な場所を活用した遠隔医療】

高齢化が進む一方で医療資源やサービス提供人材が不足する地域でも、住民が安心して暮らし続けるために、身近な場所での遠隔医療の受診を可能にするなど必要な医療サービスを享受できる体制を整備する。

【観光 DX】

デジタル技術を活用し、近接する地域間、同様の観光資源を有する地域間での連携を促進し、旅行者が周遊するエリアの拡大による滞在期間の長期化、相互送客による旅行機会の創出等に向けて取り組む。

【デジタル技術を活用した地域防災力の向上】

デジタル技術を活用した情報収集や住民への情報提供等効果的・効率的な防災対策に取り組むとともに、被災者の支援に係る手続き等の業務のデジタル化や流域に関わるあらゆる関係者が協働した「流域治水」を推進する。

Ⅱ 第2期総合戦略の評価

第2期総合戦略の検証フロー

- 第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証にあたっては、以下の検証フローで行いました。

① 第2期総合戦略の実績・成果（達成できたこと）

→第2期総合戦略の各事業を総評し、実績・成果を確認。

② 第2期総合戦略の積み残した課題

→第2期総合戦略における各事業の目標達成にむけた積み残しの課題を確認。

③ 各施策における重要業績評価指標（KPI）の達成状況（R2-R6）

→各施策における年度毎のKPIについて達成状況を確認。

事業評価の際の参考数値として把握。

※KPIについては、R6年度を最終年度としている事業も多いため、最終評価は年度末に実施。

④ 第2期総合戦略における事業評価

→第2期総合戦略において、各事業の担当による各事業毎の評価を行った。

達成度合い毎に「A：達成（100%以上） / B：概ね達成（80%以上） / C：活動見込みを下回った（80%未満） / E：未実施」で評価。

⑤ 第2期総合戦略における各事業の今後の方向性（第3期総合戦略に向けて）

→第3期総合戦略策定にあたり第2期の各事業において今後の方向性を確認。

「拡充・継続・縮減・休止/廃止・未定」で判断し、各課ヒアリングにて詳細内容をヒアリング。

(参考) 第2期総合戦略における施策体系



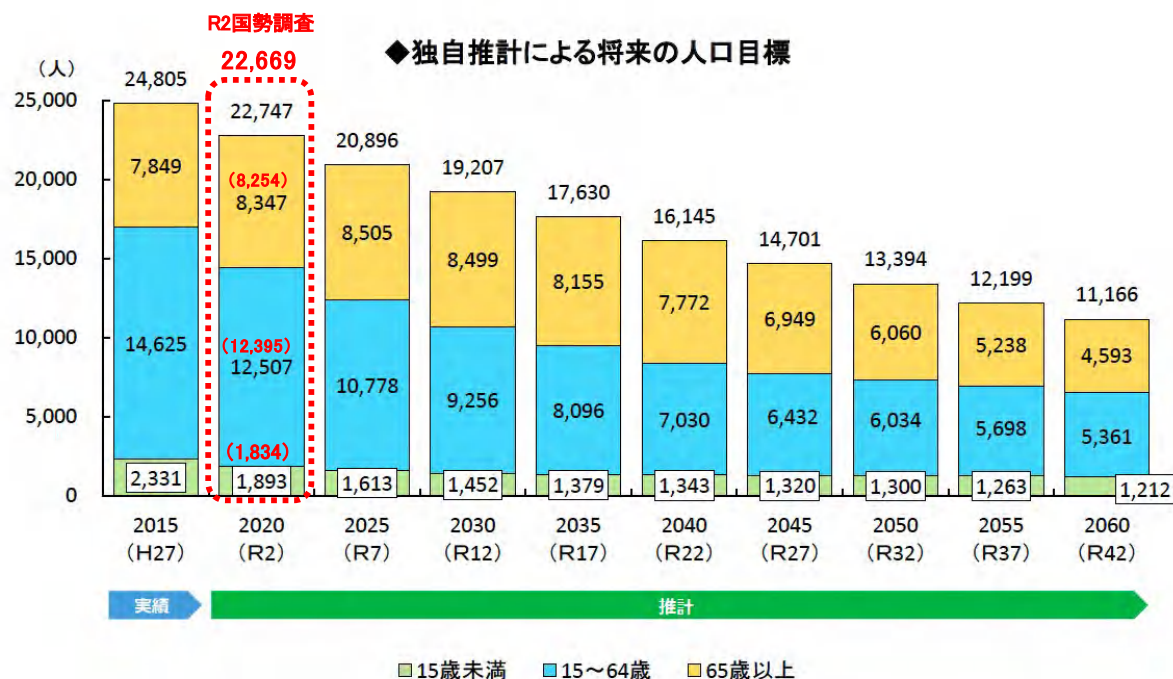
目標人口について

- 第2期総合戦略では「若者が住みたくなるまち上野原」を重点目標に掲げ、2024年度（令和6年度）の目標値を合計特殊出生率1.2、若者人口3,500人以上確保と設定しています。
- 令和5年の出生率は、0.80で、若者人口（令和6年）は3,450人となっています。
- 上野原市人口ビジョンにおける、将来人口目標を令和2年（推計）では、総人口が22,747人となっていますが、令和2年国勢調査の結果22,669人となっています。

= 2024（R6）年度の目標値 =

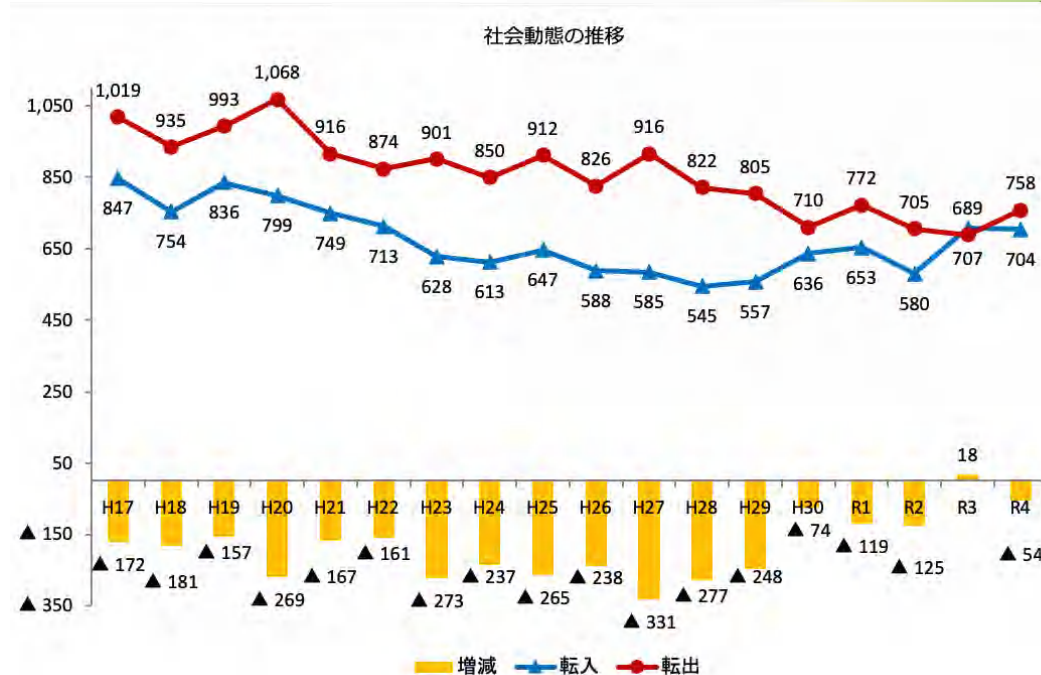
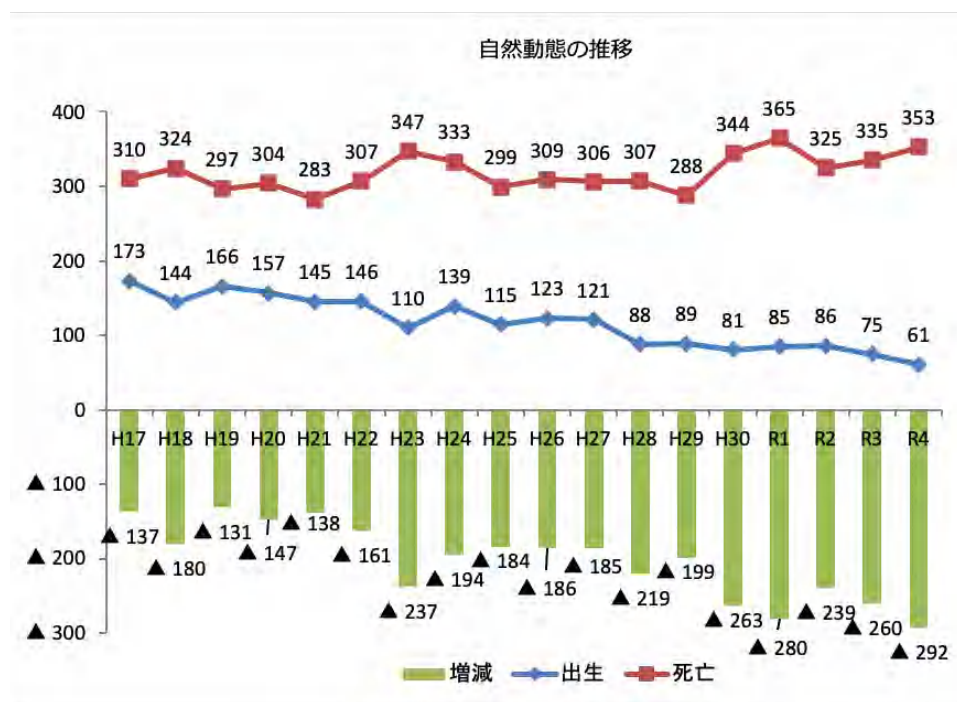
- 合計特殊出生率 **1.2**
- 若者人口（20～30代） **3,500人以上確保**

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
合計特殊出生率	0.98	0.92	0.78	0.80	—
若者人口 （20～30代）	3,793	3,744	3,660	3,538	3,450



人口動態（自然増減・社会増減）について

- 人口減少の抑制には、自然増減（出生数と死亡数の差）と、社会増減（転入と転出の差）が大きく関係します。第2期総合戦略において転出超過数を▲80人と目標に定めていますが、令和5年で▲107人と目標を下回る結果となっています。
- 自然増減では、H30年ごろからは毎年200人を超えるマイナスとなっており、死亡数の抑制と出生数の増加が必要です。
- 社会動態については、コロナ禍であった令和3年に合併後初めてとなるプラス18人と転入超過となっています。



基本目標1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくりについて

- ・ コロナ禍による地域経済の冷え込みの影響は大きく、KPIとして設定している新規雇用総数の250人の達成見込みは低くなっています。
- ・ 一方で、コロナ禍が収束した、令和4年から5年と新規創業に関する相談及び創業者数が増加しているため、相談窓口の強化や金融機関との連携強化、創業を後押しするセミナーの開催、催事への出展、テストマーケティングの支援、都市部企業のサテライトオフィスの誘致など、上野原市の強みを活かした創業支援・販路拡大等が必要です。
- ・ また、新たな要素として、都市部人材の兼業や副業、ワーケーションなど新しい働き方に関するニーズが高まっているため、見晴亭など既存施設の活用促進及び上野原市内の企業とのマッチングなどを積極的に行うなど、多様な働き方に合わせた施策・事業が求められます。

基本目標1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり					
KPI	【5年後(R6)の目標】新規雇用総数:250人				
年度	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	—	—	—
(参考) 新規創業総数 15件	相談者数6件 創業者数0件	4件 0件	4件 4件	14件 4件	10件 3件 (5年新規創業総数10件)

基本目標2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくりについて

- 各年毎の振れ幅はあるものの、全体的なトレンドとしては、令和3年に合併後初の社会増となるなど、社会増減に関する目標達成の見込みは高くなっています。
- 一方で、自然増減は大きくマイナスとなっているため、自然減のマイナス幅を最小限にしつつ、社会増を増やしていことが必要です。具体的には、年間の移住相談や移住者数は増加しているため、子育て世帯や20～30代女性などをターゲットとした移住に関する更なる情報発信の強化（シティプロモーションの強化）や住まいや仕事などをワンストップで相談できる体制づくりなどが求められます。また、空き家バンクの登録件数は県内有数のため、空き家の利活用を促進する、市内の改修事例の発信やDIYリフォームの講座、リフォーム補助の拡充などが期待されます。

基本目標2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり					
KPI	【5年後(R6)の目標】転出超過数 80 人				
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
実績	▲125 人	18 人	▲54 人	▲107 人	—
(参考) 自然増減	▲239	▲260	▲292	▲275	
(参考) 社会増減	▲125	18	▲54	▲107	
(参考) 移住者数 300 人 (5 年間総数)	34 世帯 65 人 (市が関与)	38 世帯 78 人	36 世帯 85 人	37 世帯 87 人	32 世帯 71 人 (計 177 世帯、 386 人)

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくりについて

- 出生数（0～4歳人口）や25～44歳女性人口などは減少を続けています。また、産婦人科や小児科などの出産環境、保育園や公園など子育て環境に対する不満も多くなっています。
- 上野原市の人口減少の一番の要因となっている、子育て世代の減少とそれに伴う出生数の減少に対応するため、若者世代が安心して出産、育児、子育てできる環境づくりが必要です。特に、産婦人科医や小児科医の誘致、子どもが天候に関係なく安心して遊べる場所の整備など、ハード整備には時間が必要なため、子育てサークル活動などの促進を図るとともに、地域全体で子どもや子育て世帯を支える仕組みづくりが必要です。

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり					
KPI	【5年後(R6)の目標】子育て環境や支援の満足度 55%以上				
年	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
実績	—	—	—	—	—
(参考) 出生数	83	76	61	62	
(参考) 0～4歳人口	472	438	420	409	
(参考) 25～44歳女性人口	1,861	1,792	1,730	1,677	

基本目標4 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくりについて

- 人生100年時代を見据えたアクティブシニアの増加（要介護認定を初めて受けた年齢など）については、目標値をほぼ達成見込みとなっているため、介護予防教室の実施や生活支援体制の構築など、今後も地域包括的な支援体制を継続していく必要があります。
- 近年頻発し大規模化している自然災害や新たな感染症の脅威など安心して暮らせるまちづくりについては、「自助」「共助」「公助」による有事の際の避難体制の構築など、地域防災力を強化していく必要があります。
- また、地域公共交通の充実や安全安心な歩行環境（通学路）の整備については、市民アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低い項目（重点改善項目）となっているため、交通事業者や市の財政状況なども考慮しながら、人口減少・少子高齢化に対応した交通ネットワークの検討が必要です。

基本目標4 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり					
KPI	【5年後(R6)の目標】上野原市が住みやすいと感じる市民の割合 60%以上				
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
実績	—	—	—	—	53.6 %
(参考) 健康寿命 ※初めて要介護認定を受けた年齢 男 83 歳 女 85 歳 (5 年後)	男 79.5 歳 女 84.1 歳	男 80.7 歳 女 82.2 歳	男 81.0 歳 女 83.0 歳	男 84.6 歳 女 84.7 歳	—

基本目標5 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくりについて

- 基本目標3で述べたように、上野原市の人口減少の一番の要因となっている、若い女性や子育て世代へ訴求するためにも、上野原だからできる教育の推進が必要です。上野原市の魅力を学んだり、地域課題を解決したりする課題解決型学習や多様な職業観を育むキャリア教育が求められます。そのためには、多様な体験の場づくりと各小中高と地域の連携を促進するコーディネーターの配置など、生徒が地域と積極的に関わり、主体的に地域理解を深める取組を進めることが重要です。
- また、市内の市民活動団体は増加傾向のため、活動を自立・継続するための講座や市民活動団体の課題やノウハウを共有する団体同士の交流促進など、協働の担い手の育成が必要です。

基本目標5 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり					
KPI	【5年後(R6)の目標】市民討議会等開催件数 20 回以上(5 年間総数) ※令和2年からコロナ禍のため未実施。(廃止)				
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
実績	—	—	—	—	—
(参考) 体験等参加者数 12,150 人 (5 年間総数)	生活科総合 学習参加児 童生徒数 1,264 人	1,226 人	1,201 人	1,120 人	—
(参考) 市民活動支援件数 25 件以上 (5 年間総数)	7 団体	7 団体	20 団体	23 団体 (見込み) 計 57 団体 (実数 34 団体)	

(参考) 第2期総合戦略における事業の評価

事業数	74	
A：達成（100%以上）	22	29.7%
B：概ね達成（80%以上）	28	37.8%
C：活動見込みを下回った（80%未満）	12	16.2%
E：未実施	2	2.7%
記載無し	10	13.5%

達成が67.5%

1.魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり		2.多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり		3.結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり		4.安全・安心な暮らしを守り、連携と協働で郷土愛あふれるまち・人をつくる		5.連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり	
事業数	9	事業数	18	事業数	21	事業数	16	事業数	10
A：達成（100%以上）	1	A：達成（100%以上）	7	A：達成（100%以上）	7	A：達成（100%以上）	4	A：達成（100%以上）	3
B：概ね達成（80%以上）	2	B：概ね達成（80%以上）	8	B：概ね達成（80%以上）	8	B：概ね達成（80%以上）	9	B：概ね達成（80%以上）	1
C：活動見込みを下回った（80%未満）	1	C：活動見込みを下回った（80%未満）	2	C：活動見込みを下回った（80%未満）	5	C：活動見込みを下回った（80%未満）	2	C：活動見込みを下回った（80%未満）	2
E：未実施	1	E：未実施	0	E：未実施	0	E：未実施	0	E：未実施	1
未定（記載無し）	4	未定（記載無し）	1	未定（記載無し）	1	未定（記載無し）	1	未定（記載無し）	3

（参考）第2期総合戦略における今後の事業の方向性（次期戦略に向けて）

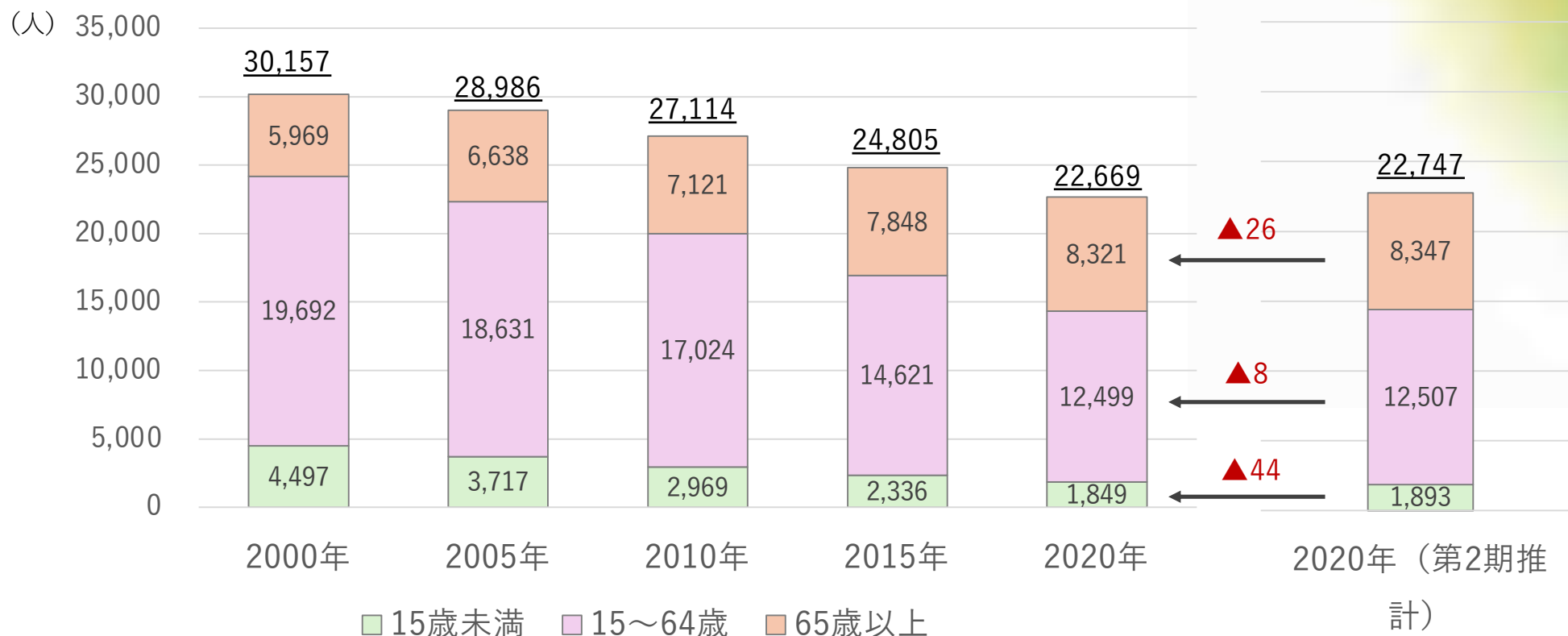
事業数	74	
拡充	3	4.1%
継続	44	59.5%
縮減	3	4.1%
休止・廃止	16	21.6%
未定 （記載無し）	8	10.8%

1.魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり		2.多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり		3.結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり		4.安全・安心な暮らしを守り、連携と協働で郷土愛あふれるまち・人をつくる		5.連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり	
事業数	9	事業数	18	事業数	21	事業数	16	事業数	10
拡充	0	拡充	0	拡充	0	拡充	1	拡充	2
継続	3	継続	12	継続	16	継続	10	継続	3
縮減	0	縮減	3	縮減	0	縮減	0	縮減	0
休止・廃止	2	休止・廃止	3	休止・廃止	4	休止・廃止	5	休止・廃止	2
未定 （記載無し）	4	未定 （記載無し）	0	未定 （記載無し）	1	未定 （記載無し）	0	未定 （記載無し）	3

Ⅲ 上野原市人口ビジョン（目標人口）

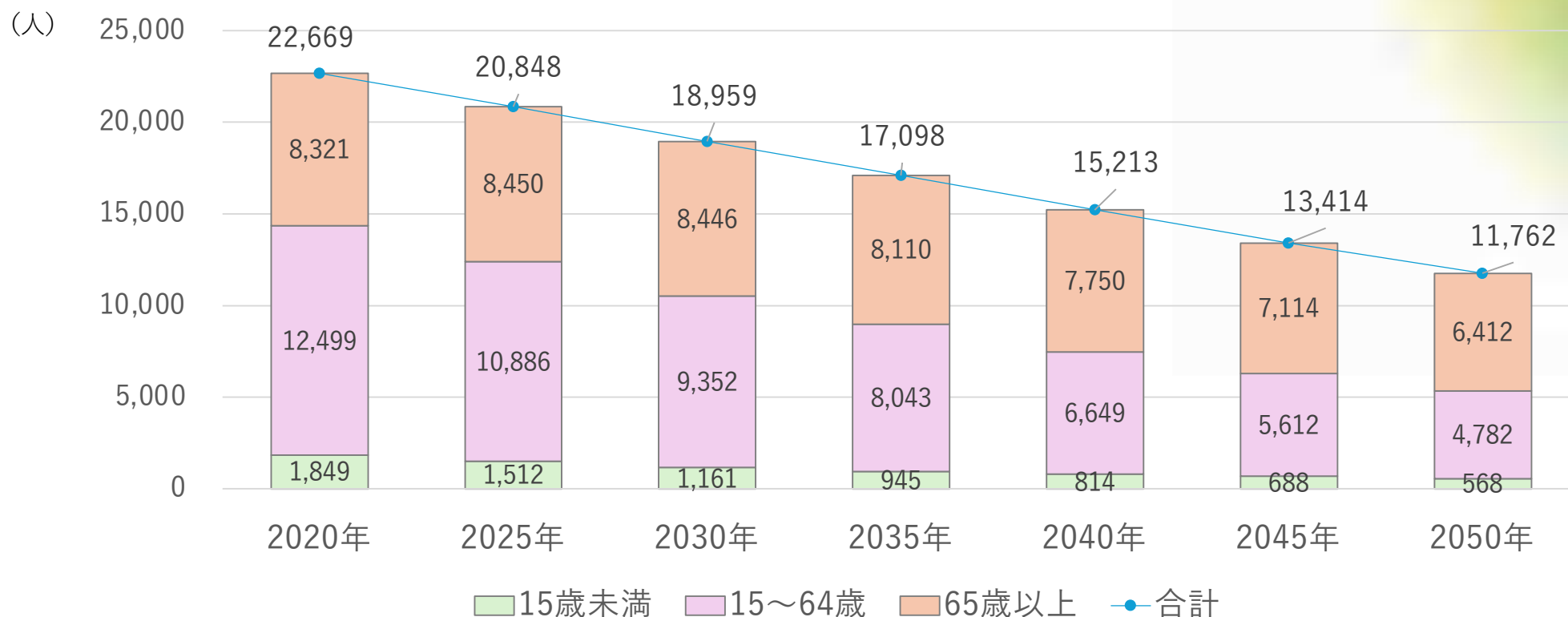
総人口について

- 第2期上野原市人口ビジョンにおいては、令和2年の人口が22,747人となっていました。一方で、令和2年国勢調査の結果では実績値として22,669人で、目標としている人口推移に対して▲78人という状況です。
- 年齢区分では、15歳未満が▲44人、15～64歳が▲8人、65歳以上が▲26人です。
- 上野原市第2期総合戦略の人口ビジョンでは、平成27（2015）年の国勢調査による国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の人口推計を基にして、その減少幅を抑制することを目標としていますが、第2期策定時の社人研の推計（令和2（2020）年の人口は22,473人）と比較すると196人のプラスです。



国（国立社会保障・人口問題研究所）の最新推計について

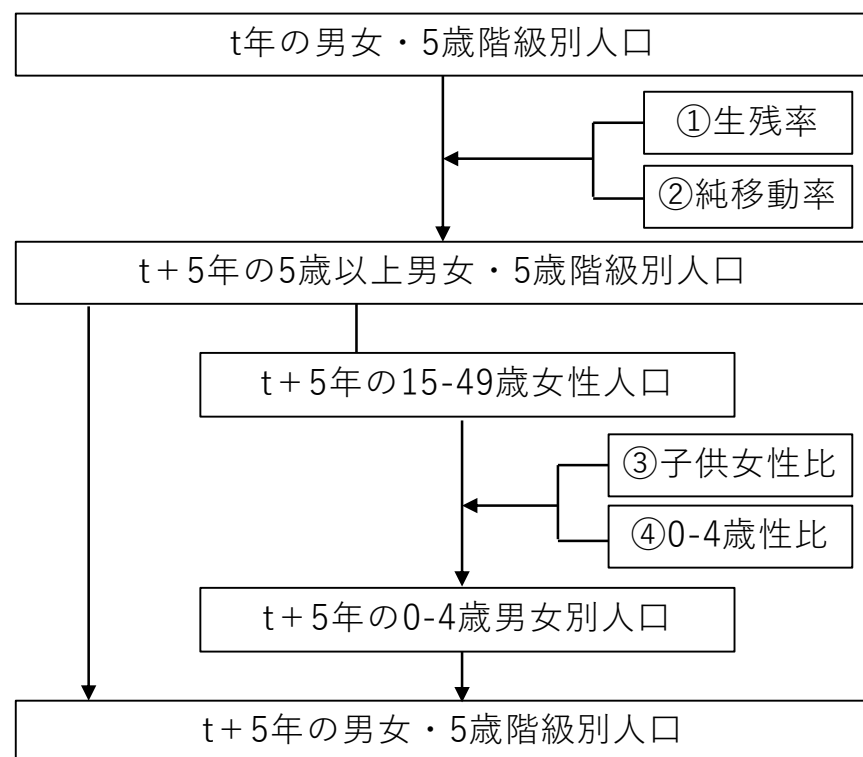
- ・ 社人研が2023年に発表した最新の推計では、上野原市の人口は第2期人口ビジョン策定時に引き続き、2030年に2万人を切る推計となっています。
- ・ 第2期人口ビジョン策定時の社人研推計では、2025年が20,199人、2030年が18,032人であったため当時の推計よりは直近数値は良化していると言えます。
- ・ 一方で、2035年までの15歳未満の人口（第2期策定時と最新推計）を比較すると2020年で▲23人、2025年で+2人、2030年で▲57人、2035年で▲41人となっています。これは、直近の出生率の減少を反映したものと考えられます。



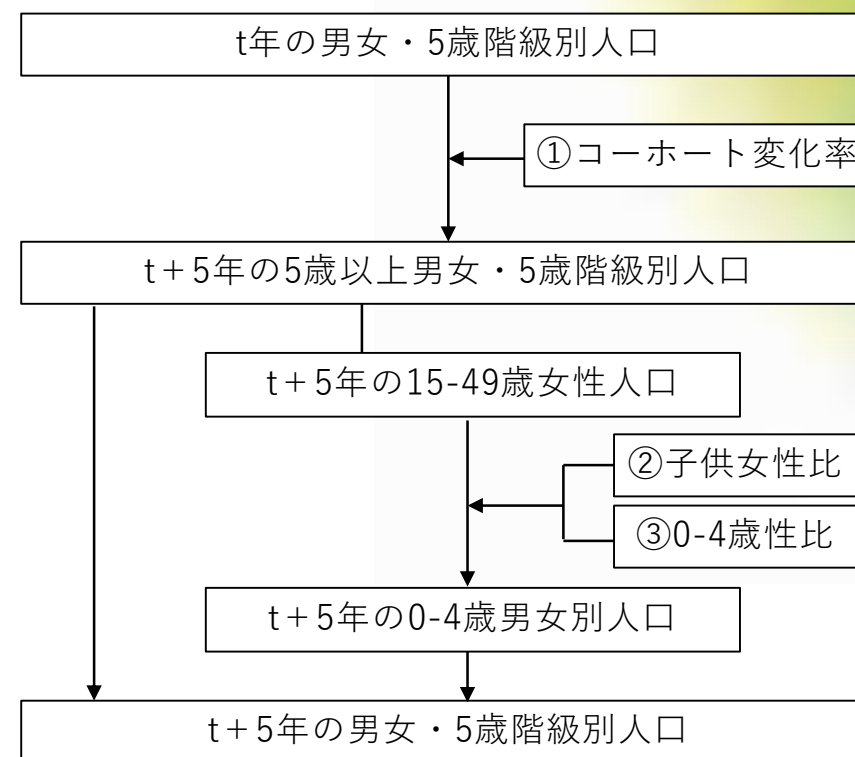
(参考) 将来人口推計手法の概要

- ・ 将来人口推計手法は「コーホート要因法」及び「コーホート変化率法」に大別され、一般的にはコーホート変化率法と比較して、コーホート要因法の方が将来人口の推計精度が高い。
- ・ 上野原市の将来人口推計はコーホート要因法を適用する。但し、地区別将来人口推計では、地区別の①生存率・②純移動率の算出が難しいため、コーホート変化率法を適用する。
- ・ なお、将来人口は上野原市全体の値をトータル値とし、地区別の将来人口との整合を図る。

■コーホート要因法による推計フロー



■コーホート変化率法による推計フロー



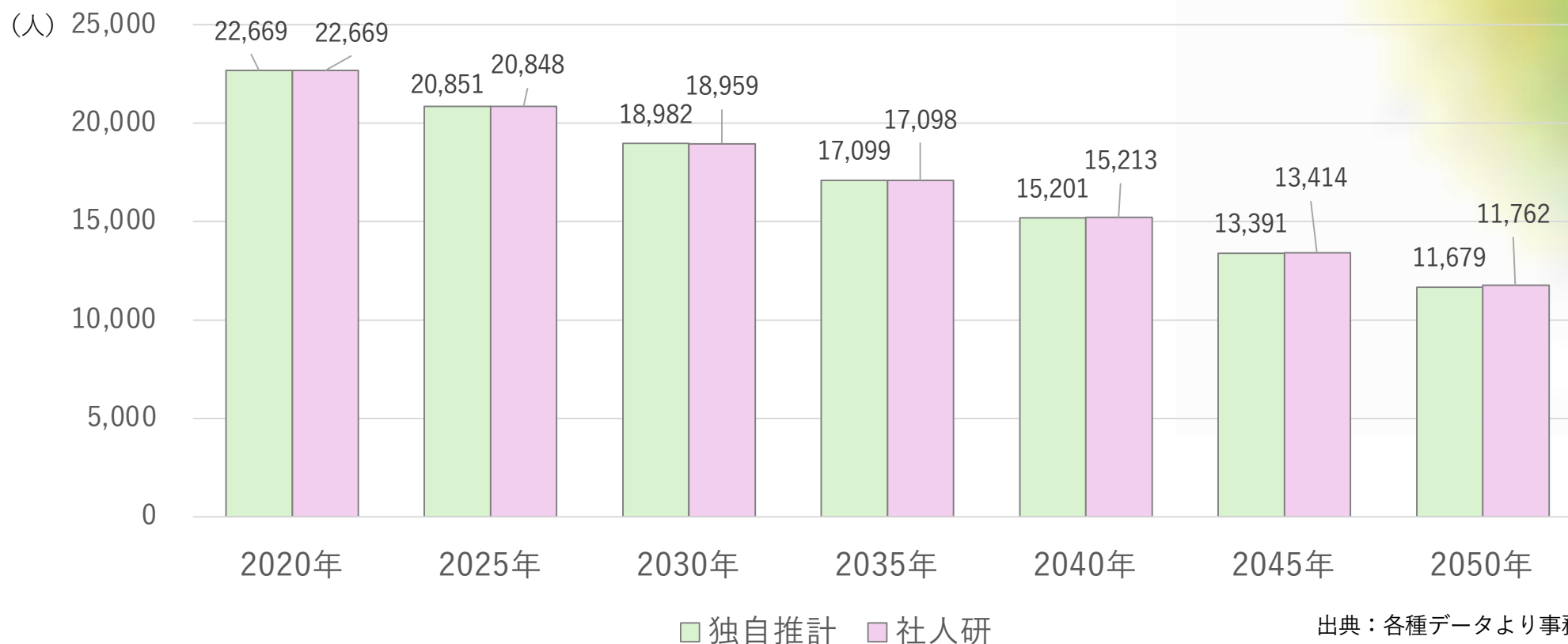
t=2020（将来人口推計における基準年）

【将来人口推計で活用するパラメータ（①～④）のイメージ】

- ・ 生存率は死亡率、純移動率は転入率-転出率、子供女性比は出生率、0-4歳性比は生まれてくる子供の性別の確率
- ・ コーホート変化率は生存率と純移動率を一つのパラメータに置換（転入率-転出率-死亡率のイメージ）

市独自の推計について（社人研との比較）

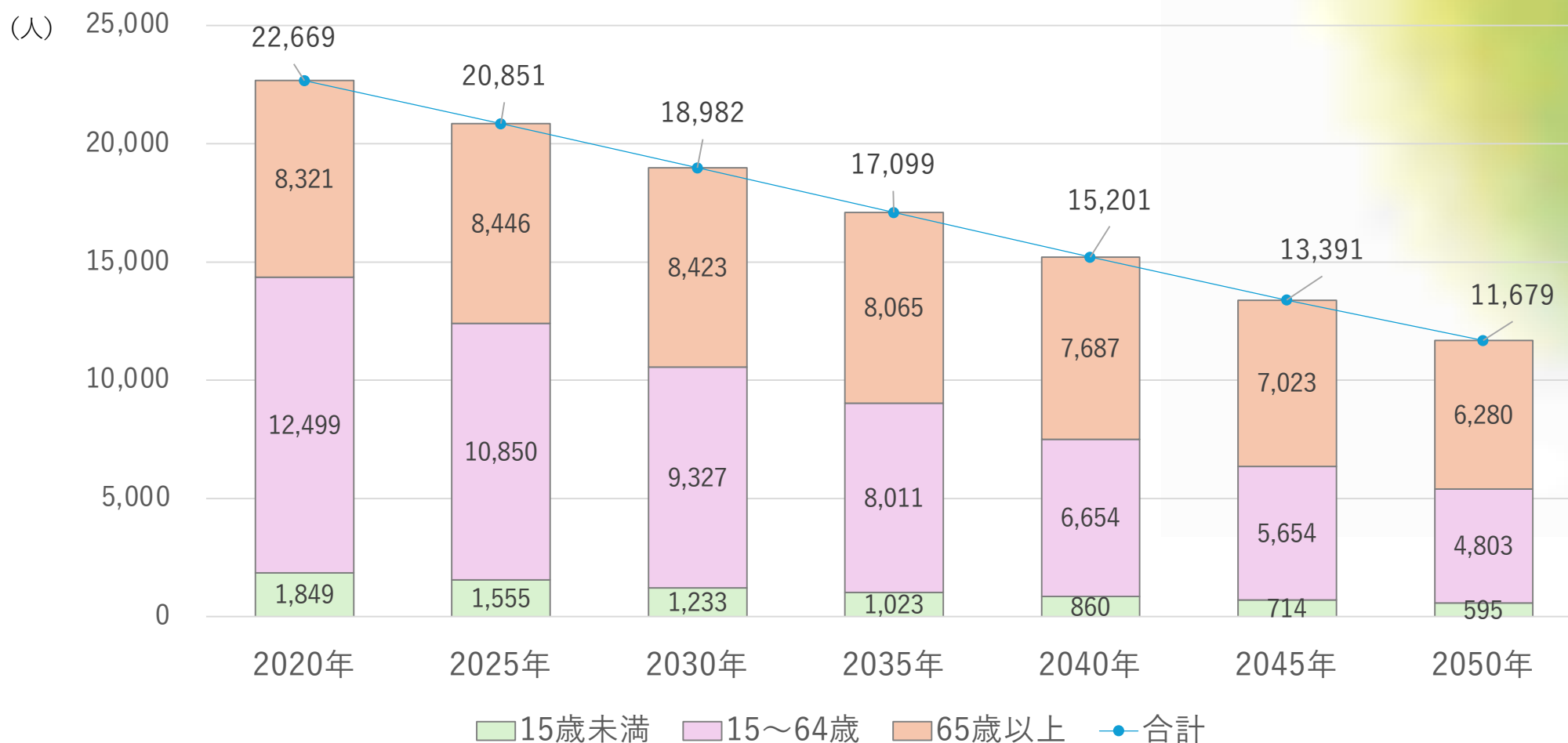
- ・市の最新数値（国勢調査実績等）を活用し、何も人口対策を行わなかった場合の推計結果は以下のとおりです。（※）
- ・社人研の推計と比較して2035年まで独自推計の方がやや上振れ、2040年以降に下振れをしています。
- ・これは、国勢調査の2020年実績よりも社人研の2020年推計基準値の方が、主に15～29歳で110人程度多くなっていることが要因となります。（反対に、40歳以降で合計110人程度少ない）



※最新の推計では、90歳台の（85歳→89歳～90歳→94歳、90歳～→95歳～）移動率・生残率も含めた推計値が配布されているため、本推計も数値を更新しています。

市独自の推計について（年齢区分別）

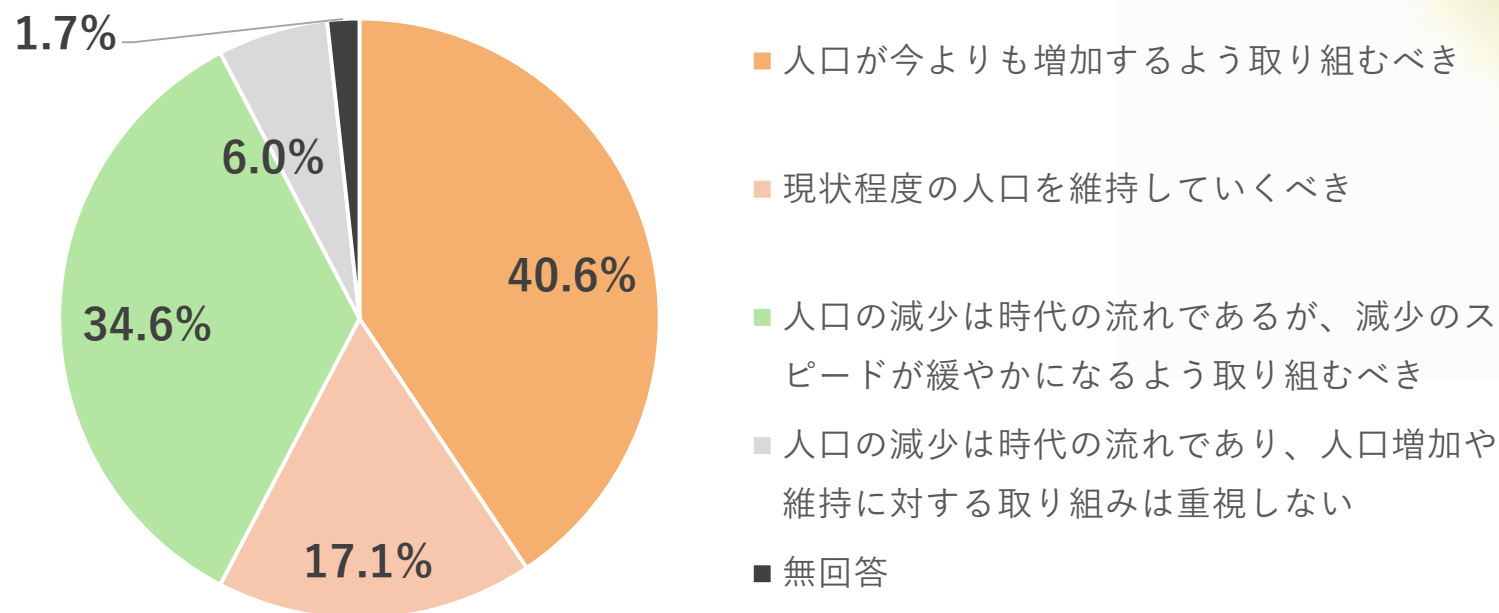
- 市独自推計（人口対策を行わない場合）の年齢区分別を見ると、以下のとおりです。
- 主に15～64歳の年齢区分で5年毎に1,000人程度の減少が見られます。



市民の人口減少に対する考え方 | 全体（市民アンケートより）

- 市民に対して行ったアンケートでは、「人口が今よりも増加するよう取り組むべき」が40.6%で最多、「現状程度の人口を維持していくべき」が17.1%で、「現状の人口以上の状態を望む」人の割合は57.7%と半数を超えました。
- また、「人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない」が6.0%で、無回答の1.7%を除くと全体で、92.3%が人口減少に対して何かしらの取り組みを行うべきと考えていることがわかりました。

問22 上野原市の人口について、あなたのお考えに近いものを選んでください。（1つに○）



市民の人口減少に対する考え方 | 年代別（市民アンケートより）

- なお、人口に対する希望については年代別などの属性別で見ると、30歳代で「人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるように取り組むべき」との割合がやや他年代と比較して高い傾向です。
- それ以外の年代では、全体と大きな差は見られませんでした。

問22 上野原市の人口について、あなたのお考えに近いものを選んでください。（1つに○）

		人口が今よりも増加するよう取り組むべき	現状程度の人口を維持していくべき	人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるよう取り組むべき	人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない	無回答
	横%					
	n(Total)					
Total	638	40.6%	17.1%	34.6%	6.0%	1.7%
10歳代・20歳代	136	43.4%	20.6%	28.7%	6.6%	0.7%
30歳代	149	34.2%	14.1%	41.6%	7.4%	2.7%
40歳代	124	41.1%	17.7%	35.5%	5.6%	0.0%
50歳代	95	42.1%	18.9%	30.5%	7.4%	1.1%
60歳以上	129	42.6%	15.5%	34.9%	3.1%	3.9%
無回答	5	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%

Totalとの有意差検定（n<30を除く）

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

出典：上野原市アンケート結果より事務局作成

上野原市の目標人口に対する考え方

<前提>

- ・ 市民アンケートにおいて、人口は「現状維持または増加」が多数となっています
- ・ 総合戦略の検討に係る各種会議においても、「人口減少に対して対策を行わない」という声は聞かれていません。

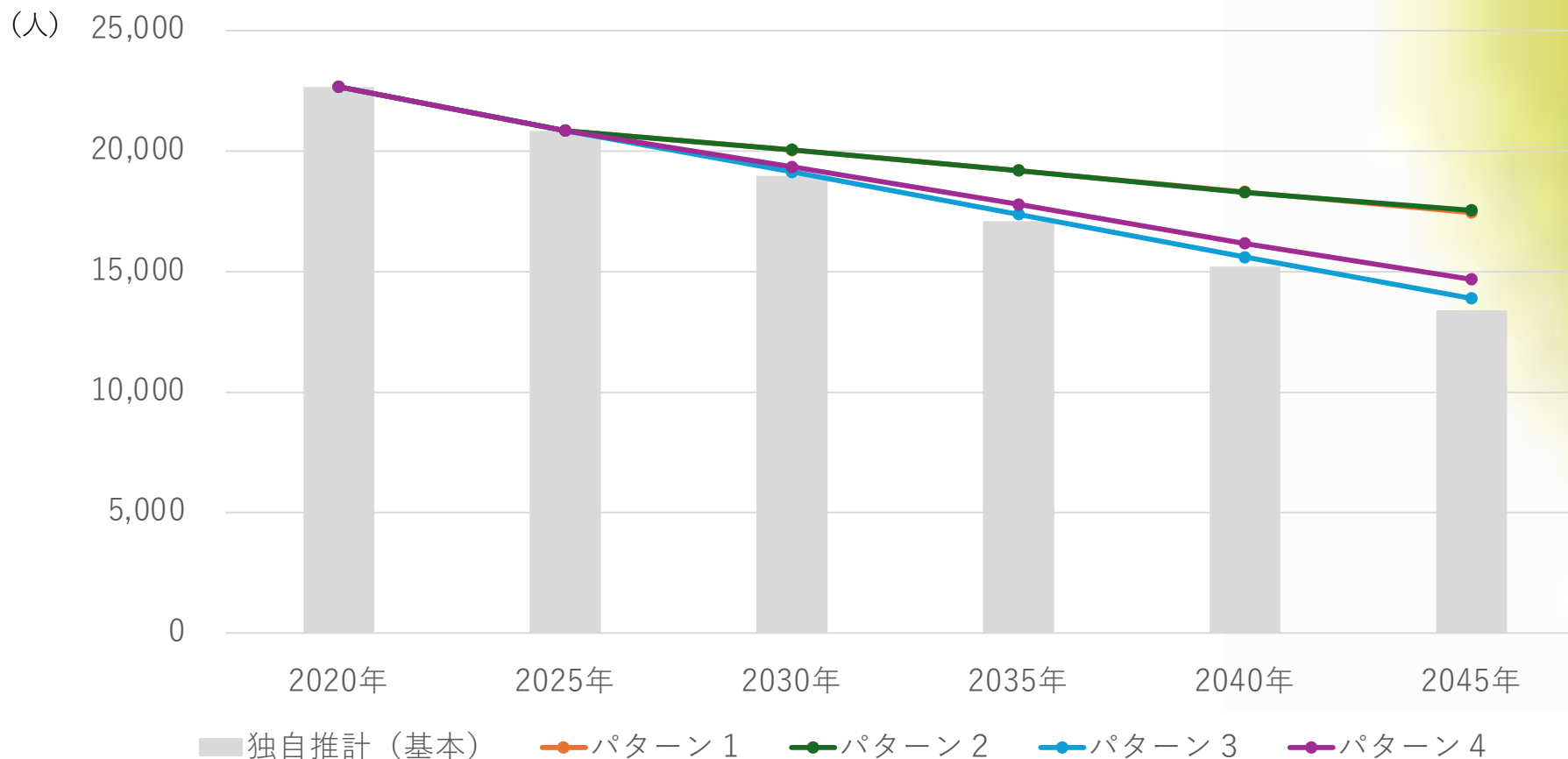
複数の独自推計パターンをセットし、推計を実施し目指す方向性について検討を行った。

<独自推計パターンの考え方>

	目標人口の設定	移動率	出生率	2030年人口	2050年人口
パターン1	2030年に2万人維持	0～69歳で 140%改善	現状値	20,049人	16,642人
パターン2	2030年に2万人維持	0～69歳で 110%改善	山梨県平均 1.46	20,054人	16,894人
パターン3	設定しない	0～69歳で 20%改善	現状値	19,134人	12,262人
パターン4	設定しない	0～69歳で 20%改善	山梨県平均 1.46	19,348人	13,274人

※推計の移動率等の改善値が反映されるのは2030年からとなっている。（※次期総合戦略の開始が2025年であるため）

独自推計パターン別の推計比較



パターン 1：2030年に人口2万人を維持（移動率のみ改善パターン）

パターン 2：2030年に人口2万人を維持（移動率が改善し、出生率が1.46となる）

パターン 3：2030年に移動率が20%改善

パターン 4：2030年に移動率が20%改善し、出生率が1.46となる

※パターン1～4まで2030年以降の移動率及び出生率は同数値

独自推計パターン別の比較（人口詳細）

パターン1 2030年に人口2万人程度を維持することを目指して移動率のみを改善する（改善率：140%）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	20,049	19,194	18,314	17,450	16,642	15,924	15,297
15歳未満	1,849	1,555	1,313	1,230	1,223	1,223	1,237	1,229	1,189
15～64歳	12,499	10,850	10,282	9,815	9,262	9,018	8,900	8,930	8,988
65歳以上	8,321	8,446	8,453	8,149	7,828	7,209	6,505	5,765	5,120
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,074	5,016	4,707	4,445	3,987	3,516
高齢化率	37%	41%	42%	42%	43%	41%	39%	36%	33%
後期高齢率	19%	23%	25%	26%	27%	27%	27%	25%	23%

パターン2 2030年に人口2万人程度を維持することを目指して移動率と出生率を改善する（移動率改善：110%、出生率1.46）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	20,054	19,198	18,293	17,542	16,894	16,363	15,958
15歳未満	1,849	1,555	1,530	1,660	1,852	1,821	1,851	1,898	1,914
15～64歳	12,499	10,850	10,077	9,408	8,643	8,551	8,586	8,755	8,986
65歳以上	8,321	8,446	8,447	8,131	7,798	7,169	6,457	5,710	5,058
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,071	5,006	4,689	4,418	3,956	3,481
高齢化率	37%	41%	42%	42%	43%	41%	38%	35%	32%
後期高齢率	19%	23%	25%	26%	27%	27%	26%	24%	22%

独自推計パターン別の比較（人口詳細）

パターン3 移動率の改善を通じて、人口減少の緩和を図る（改善率：20%）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	19,134	17,381	15,596	13,885	12,262	10,753	9,373
15歳未満	1,849	1,555	1,244	1,051	906	775	669	581	504
15～64歳	12,499	10,850	9,463	8,254	6,983	6,061	5,281	4,622	3,991
65歳以上	8,321	8,446	8,427	8,077	7,707	7,050	6,312	5,550	4,878
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,062	4,976	4,635	4,339	3,863	3,379
高齢化率	37%	41%	44%	46%	49%	51%	51%	52%	52%
後期高齢率	19%	23%	26%	29%	32%	33%	35%	36%	36%

パターン4 出生率と移動率の改善を通じて、人口減少の緩和を図る（移動率改善：20%、出生率：1.46）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	19,348	17,787	16,167	14,676	13,274	11,879	10,610
15歳未満	1,849	1,555	1,458	1,457	1,477	1,290	1,166	1,084	1,001
15～64歳	12,499	10,850	9,463	8,254	6,983	6,337	5,795	5,245	4,731
65歳以上	8,321	8,446	8,427	8,077	7,707	7,050	6,312	5,550	4,878
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,062	4,976	4,635	4,339	3,863	3,379
高齢化率	37%	41%	44%	45%	48%	48%	48%	47%	46%
後期高齢率	19%	23%	26%	28%	31%	32%	33%	33%	32%

独自推計パターン別の比較（年齢別移動状況・移動率改善を加えた年齢）

- パターン1,2は、現状の移動率に対して100%以上の改善が前提となっているため社会流出が多くなっています。20～34歳においては、次の5年に当該年齢の人口を増やすほどの取り組みが必要となっています。（流出させない、または流出した以上の人口が流入する）

	2025年推計	2030年独自推計	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
0歳～4歳	388	332	384	607	339	553
5歳～9歳	499	403	425	421	407	407
10歳～14歳	668	497	504	503	498	498
15歳～19歳	849	783	944	909	806	806
20歳～24歳	955	833	882	871	840	840
25歳～29歳	673	539	1,120	995	622	622
30歳～34歳	766	604	698	678	618	618
35歳～39歳	826	763	779	776	766	766
40歳～44歳	988	827	833	832	828	828
45歳～49歳	1,138	978	987	985	979	979
50歳～54歳	1,468	1,133	1,140	1,139	1,134	1,134
55歳～59歳	1,449	1,443	1,459	1,455	1,445	1,445
60歳～64歳	1,738	1,423	1,441	1,437	1,426	1,426
65歳～69歳	1,796	1,695	1,711	1,708	1,697	1,697

上野原市における目標人口

<推計パターンより>

- 人口維持を目指すものの、全国傾向と同様に上野原市でも人口減少が続くため、2万人の人口を維持することは現実的に難しいと考えられます。
- 現状、出生率が山梨県下で最も低いことから、出生率については何らかの対策を取り組むことが必要です。
- また市民アンケートや市民ワークショップの意見でも見られた通り、様々な年代の人が共に生きる、上野原市の循環を享受できる状態を目指すため、移動率が改善していく状態（流出の減少、流入の増加）に取り組む必要があります。

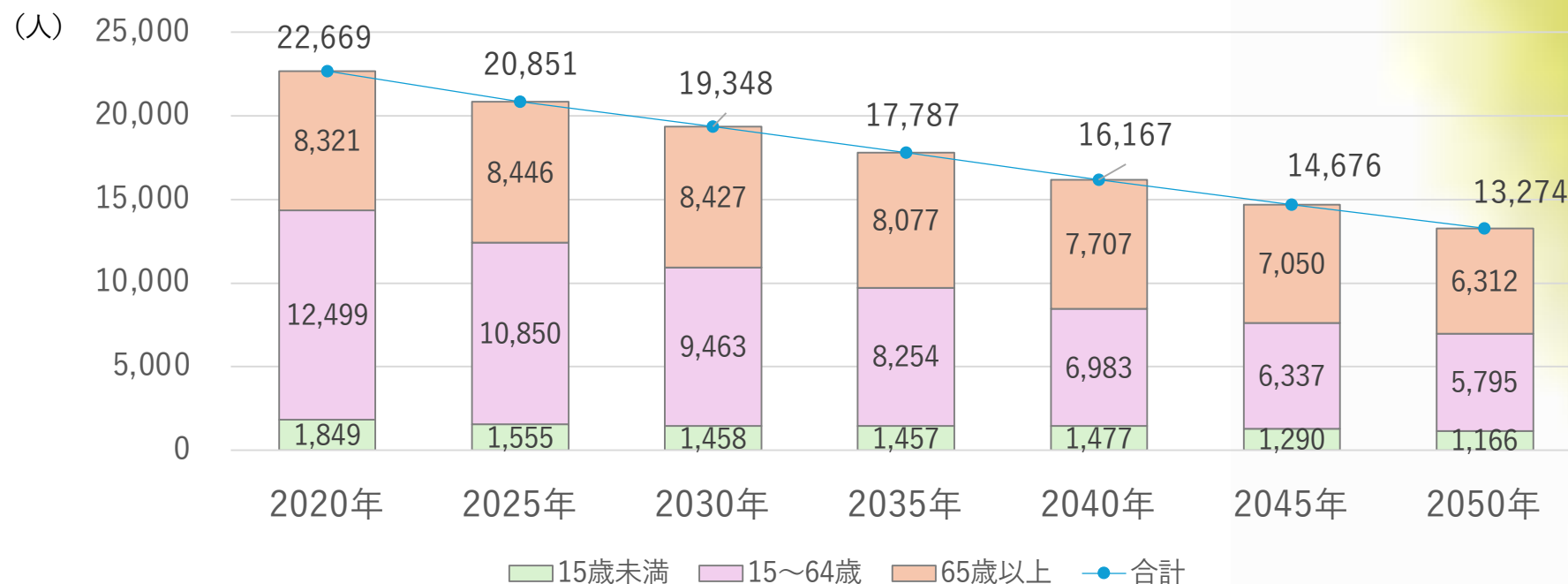
- 上野原市としては、次期総合戦略の方向性として「独自推計パターン4」の出生率を、山梨県全体の出生率と同程度とし、移動率を、現在よりも20%改善することを目指します。

目標総人口（2030年） 19,348 人

- 合計特殊出生率 1.46
- 年少人口 1,458 人（比率 7.5%）
- 生産年齢人口 9,463 人（比率 48.9%）
- 老年人口 8,427人（比率 43.6%）

● 独自推計パターン4の推計値詳細（年齢3区分、出生数等）

< 年齢3区分別人口 >



< 0～4歳、出生人口、出産適齢女性人口 >

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
0～4歳人口	388人	553人	468人	399人	371人	348人
出生数	67～68人	96～97人	81～82人	69～70人	64～65人	60～61人
15～49歳女性	2,931人	2,568人	2,174人	1,854人	1,721人	1,616人

独自推計パターン4の推計値詳細（5歳階級人口）

（単位：人）

	2020年実績			2025年推計			2030年推計			2035年推計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	450	247	203	388	209	179	553	300	253	468	254	214
5歳～9歳	653	317	336	499	280	219	407	219	188	582	315	267
10歳～14歳	746	382	364	668	324	344	498	277	221	407	217	190
15歳～19歳	1,013	533	481	849	440	409	806	405	401	605	347	258
20歳～24歳	1,173	665	508	955	556	400	840	451	389	797	416	381
25歳～29歳	839	458	381	673	364	308	622	354	268	550	289	261
30歳～34歳	831	466	365	766	426	340	618	337	281	570	327	243
35歳～39歳	956	484	472	826	434	392	766	420	346	619	332	287
40歳～44歳	1,125	568	557	988	497	491	828	434	394	772	423	349
45歳～49歳	1,484	778	706	1,138	547	591	979	489	490	822	428	394
50歳～54歳	1,478	747	731	1,468	769	699	1,134	545	589	978	489	489
55歳～59歳	1,757	869	888	1,449	727	721	1,445	759	686	1,117	539	578
60歳～64歳	1,841	973	868	1,738	851	888	1,426	717	709	1,423	748	675
65歳～69歳	2,024	1,068	956	1,796	946	850	1,697	820	878	1,398	694	704
70歳～74歳	1,976	1,015	962	1,951	1,026	926	1,695	879	817	1,617	770	847
75歳～79歳	1,536	724	813	1,811	915	896	1,770	896	874	1,549	773	776
80歳～84歳	1,268	555	713	1,288	573	715	1,542	734	808	1,520	723	796
85歳～89歳	873	317	555	935	382	553	982	409	573	1,198	539	659
90歳～94歳	469	127	342	517	147	370	550	194	356	592	214	378
95歳以上	174	39	135	149	31	118	190	46	144	203	63	141
合計	22,669	11,331	11,338	20,851	10,442	10,409	19,348	9,686	9,662	17,787	8,900	8,887

パターン4の推計値詳細（5歳階級人口）

(単位:人)

	2040年推計			2045年			2050年			2055年			2060年		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	399	216	183	371	201	170	348	189	159	319	173	146	291	158	133
5歳～9歳	495	268	227	423	229	194	394	213	181	370	200	169	339	184	155
10歳～14歳	583	313	270	496	266	230	424	227	197	396	212	184	371	199	172
15歳～19歳	496	273	223	713	395	318	607	337	271	519	287	232	484	268	216
20歳～24歳	607	359	247	501	286	215	721	414	307	615	353	261	526	301	224
25歳～29歳	524	267	256	399	232	167	331	185	146	477	269	208	406	229	177
30歳～34歳	507	269	238	484	249	235	370	217	153	308	173	134	443	251	191
35歳～39歳	570	322	248	509	265	243	488	247	241	373	215	158	310	172	138
40歳～44歳	625	334	291	574	324	251	514	268	246	494	249	244	377	217	160
45歳～49歳	768	418	350	622	330	292	571	320	251	512	265	247	491	246	245
50歳～54歳	822	428	393	771	420	351	625	332	293	573	321	252	514	266	248
55歳～59歳	965	484	481	812	425	387	764	418	346	619	331	288	569	320	249
60歳～64歳	1,100	532	568	952	479	473	803	421	381	755	414	341	612	328	284
65歳～69歳	1,394	724	670	1,081	516	565	937	466	471	789	410	380	742	403	339
70歳～74歳	1,337	656	681	1,333	684	649	1,037	489	548	898	441	457	756	388	368
75歳～79歳	1,489	684	806	1,236	585	651	1,233	612	621	961	437	524	832	395	437
80歳～84歳	1,338	631	707	1,302	563	739	1,086	486	600	1,081	508	573	847	363	483
85歳～89歳	1,185	533	653	1,061	474	587	1,053	433	620	878	373	504	872	391	481
90歳～94歳	739	291	448	741	293	448	679	268	411	680	245	435	564	211	353
95歳以上	226	71	155	296	103	193	287	100	187	263	91	172	265	83	181
合計	16,167	8,072	8,095	14,676	7,319	7,357	13,274	6,642	6,632	11,879	5,969	5,910	10,610	5,373	5,237

パターン4の地区別人口 | 大目地区、甲東地区、巖地区

<大目>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	5	4	2	3	2	2
5～9歳	4	3	2	1	2	2
10～14歳	10	2	2	1	1	2
15～19歳	21	10	2	2	1	1
20～24歳	15	16	9	2	2	1
25～29歳	17	14	15	9	3	3
30～34歳	13	14	12	12	8	3
35～39歳	19	14	14	13	13	8
40～44歳	18	16	12	12	11	11
45～49歳	27	18	15	12	12	11
50～54歳	28	32	20	18	14	14
55～59歳	30	26	30	20	17	13
60～64歳	47	30	26	30	19	17
65～69歳	46	46	29	25	29	20
70～74歳	41	42	43	26	23	26
75～79歳	42	39	40	40	25	22
80～84歳	24	32	30	30	30	19
85～89歳	19	14	20	20	21	21
90歳以上	19	10	7	13	12	13
(女性)						
0～4歳	6	5	2	4	2	2
5～9歳	10	10	8	4	6	4
10～14歳	8	8	8	6	2	4
15～19歳	14	9	9	10	8	3
20～24歳	15	9	6	7	8	7
25～29歳	14	4	2	3	3	3
30～34歳	15	7	2	1	1	2
35～39歳	7	17	8	2	1	1
40～44歳	20	5	13	6	1	1
45～49歳	22	18	5	11	5	1
50～54歳	25	24	20	5	12	5
55～59歳	32	22	21	18	4	11
60～64歳	44	32	22	21	18	4
65～69歳	46	42	31	21	20	17
70～74歳	35	47	43	31	21	20
75～79歳	48	35	47	44	32	22
80～84歳	44	43	31	43	41	30
85～89歳	52	48	46	34	47	46
90歳以上	64	46	41	38	28	41
合計	966	813	695	598	505	433

<甲東>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	8	14	5	5	6	4
5～9歳	11	7	13	4	5	5
10～14歳	21	10	6	12	4	5
15～19歳	35	19	9	6	12	4
20～24歳	26	22	13	7	4	8
25～29歳	13	13	11	8	4	3
30～34歳	12	9	9	8	5	3
35～39歳	10	11	7	8	7	5
40～44歳	27	12	13	9	10	8
45～49歳	30	25	11	12	8	9
50～54歳	45	26	21	9	10	7
55～59歳	42	48	28	22	10	11
60～64歳	55	42	47	28	22	10
65～69歳	49	51	39	45	26	21
70～74歳	28	47	50	37	43	25
75～79歳	21	28	47	49	36	43
80～84歳	30	16	21	36	37	28
85～89歳	15	19	11	14	26	27
90歳以上	5	12	15	10	14	26
(女性)						
0～4歳	6	4	2	4	2	2
5～9歳	11	6	4	2	4	2
10～14歳	18	9	5	3	2	4
15～19歳	29	15	8	4	3	3
20～24歳	18	20	11	7	4	3
25～29歳	20	9	11	6	5	3
30～34歳	10	15	8	9	6	4
35～39歳	22	10	16	7	9	6
40～44歳	20	24	11	17	9	10
45～49歳	36	20	25	11	16	8
50～54歳	30	33	18	23	10	15
55～59歳	34	31	34	19	23	10
60～64歳	48	33	30	33	18	22
65～69歳	22	49	33	31	34	18
70～74歳	41	23	51	35	32	36
75～79歳	34	34	19	43	30	28
80～84歳	45	30	30	17	39	27
85～89歳	24	33	21	22	12	29
90歳以上	18	13	18	11	11	7
合計	969	842	731	633	558	489

<巖>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	61	62	49	68	52	35
5～9歳	134	82	89	65	88	68
10～14歳	142	142	89	93	68	92
15～19歳	254	191	193	133	137	101
20～24歳	314	240	202	199	138	144
25～29歳	113	100	75	75	76	51
30～34歳	119	113	98	75	75	76
35～39歳	143	116	102	94	71	71
40～44歳	202	152	127	108	101	78
45～49歳	171	200	145	123	106	99
50～54歳	224	167	189	138	119	102
55～59歳	271	218	162	185	136	117
60～64歳	261	269	214	160	183	135
65～69歳	237	255	266	211	158	181
70～74歳	162	224	249	251	202	152
75～79歳	126	147	205	219	222	180
80～84歳	90	104	119	167	180	184
85～89歳	40	52	63	75	110	120
90歳以上	14	15	21	28	35	52
(女性)						
0～4歳	105	50	30	39	31	21
5～9歳	121	110	53	31	41	32
10～14歳	147	127	116	56	32	43
15～19歳	218	176	155	147	72	42
20～24歳	226	172	147	148	141	70
25～29歳	121	77	62	61	64	59
30～34歳	121	94	64	52	51	55
35～39歳	157	122	99	63	52	51
40～44歳	197	170	138	107	69	56
45～49歳	179	197	173	132	102	65
50～54歳	287	180	196	174	132	103
55～59歳	244	284	177	192	170	129
60～64歳	225	238	280	172	186	166
65～69歳	233	230	239	284	176	190
70～74歳	172	224	221	228	273	170
75～79歳	139	163	213	213	221	266
80～84歳	106	119	137	184	186	194
85～89歳	81	83	90	107	145	149
90歳以上	46	63	62	65	79	108
合計	6,209	5,726	5,309	4,922	4,480	4,007

パターン4の地区別人口 | 大鶴地区、島田地区、上野原地区

<大鶴>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	8	7	8	12	9	10
5～9歳	13	9	9	9	14	11
10～14歳	13	10	7	6	7	10
15～19歳	22	13	10	8	7	7
20～24歳	30	20	13	10	7	6
25～29歳	19	13	9	7	5	4
30～34歳	17	18	12	9	7	5
35～39歳	17	15	15	11	8	5
40～44歳	26	16	14	14	10	8
45～49歳	16	28	16	15	15	11
50～54歳	29	18	31	18	17	16
55～59歳	39	32	20	34	20	19
60～64歳	47	40	33	21	35	21
65～69歳	59	46	39	32	21	34
70～74歳	41	51	41	34	28	18
75～79歳	38	32	40	31	27	22
80～84歳	15	24	20	25	20	17
85～89歳	14	13	22	19	25	20
90歳以上	9	7	7	14	12	16
(女性)						
0～4歳	8	2	5	8	7	7
5～9歳	9	13	3	9	14	11
10～14歳	9	11	16	4	11	18
15～19歳	22	10	12	19	4	14
20～24歳	21	20	10	14	21	5
25～29歳	16	18	18	10	14	22
30～34歳	17	11	13	14	8	11
35～39歳	22	15	10	12	13	7
40～44歳	12	28	20	14	15	16
45～49歳	24	10	24	16	11	12
50～54歳	34	25	10	25	17	11
55～59歳	38	33	24	10	23	17
60～64歳	48	35	30	22	9	21
65～69歳	47	46	33	29	21	9
70～74歳	28	48	47	34	30	21
75～79歳	30	24	41	41	30	27
80～84歳	38	29	23	41	41	30
85～89歳	39	30	22	18	33	33
90歳以上	47	26	19	13	11	21
合計	981	846	746	682	627	573

<島田>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	28	14	17	26	28	26
5～9歳	30	29	16	18	27	29
10～14歳	31	28	28	15	16	25
15～19歳	63	30	27	30	16	18
20～24歳	48	45	25	21	24	13
25～29歳	35	27	26	16	15	16
30～34歳	27	33	26	25	14	13
35～39歳	39	33	38	31	30	18
40～44歳	91	43	38	42	35	33
45～49歳	71	74	34	30	34	28
50～54歳	68	66	68	31	28	32
55～59歳	70	73	71	74	34	30
60～64歳	89	73	76	74	78	36
65～69歳	95	79	67	69	67	70
70～74歳	88	89	77	63	65	64
75～79歳	79	76	78	65	53	55
80～84歳	35	62	59	62	51	43
85～89歳	28	25	48	47	51	43
90歳以上	8	12	11	24	26	28
(女性)						
0～4歳	16	27	17	25	26	25
5～9歳	16	25	42	27	39	41
10～14歳	27	19	30	50	32	47
15～19歳	58	28	20	33	56	37
20～24歳	48	43	22	19	30	52
25～29歳	29	31	30	18	16	24
30～34歳	36	28	32	31	20	18
35～39歳	40	32	26	29	28	17
40～44歳	64	43	35	28	31	30
45～49歳	56	64	44	34	27	30
50～54歳	64	59	67	46	36	28
55～59歳	63	66	61	68	47	37
60～64歳	84	67	71	65	72	50
65～69歳	107	75	59	63	58	64
70～74歳	93	100	70	55	59	54
75～79歳	63	89	97	69	54	58
80～84歳	71	53	74	82	59	46
85～89歳	39	47	34	49	56	40
90歳以上	23	21	24	17	26	29
合計	2,020	1,833	1,685	1,571	1,464	1,347

<上野原>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	160	126	113	166	144	130
5～9歳	173	154	129	106	158	135
10～14歳	219	173	159	128	105	156
15～19歳	294	223	179	180	143	118
20～24歳	335	291	249	194	194	157
25～29歳	251	247	213	215	173	169
30～34歳	248	232	227	195	197	158
35～39歳	271	244	214	222	189	193
40～44歳	346	258	239	204	213	183
45～49歳	343	359	258	244	208	218
50～54歳	383	358	365	263	251	214
55～59歳	347	367	340	352	255	244
60～64歳	422	336	352	328	339	247
65～69歳	442	405	326	339	318	329
70～74歳	337	409	385	301	316	297
75～79歳	266	298	362	329	258	275
80～84歳	194	222	246	302	276	218
85～89歳	118	131	160	183	232	216
90歳以上	61	44	50	70	84	109
(女性)						
0～4歳	149	99	111	158	138	121
5～9歳	149	137	92	102	146	125
10～14歳	196	144	133	88	98	140
15～19歳	282	200	149	144	96	110
20～24歳	290	224	170	144	138	94
25～29歳	196	218	179	155	138	128
30～34歳	214	169	203	167	146	132
35～39歳	252	230	188	214	178	155
40～44歳	303	240	228	181	206	170
45～49歳	344	336	272	243	193	217
50～54歳	361	336	326	268	238	190
55～59歳	339	358	333	321	263	234
60～64歳	364	334	357	326	315	259
65～69歳	402	363	328	354	325	314
70～74歳	396	383	345	310	337	311
75～79歳	346	357	348	320	288	313
80～84歳	279	320	326	325	302	273
85～89歳	208	218	242	256	258	242
90歳以上	115	133	135	143	156	159
合計	10,393	9,672	9,031	8,540	8,012	7,453

パターン4の地区別人口 | 梶原地区、西原地区、秋山地区

＜梶原＞	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	7	8	3	3	2	2
5～9歳	12	4	5	2	2	2
10～14歳	15	6	2	3	1	2
15～19歳	13	12	6	2	3	1
20～24歳	18	10	10	6	2	3
25～29歳	15	10	9	11	7	3
30～34歳	16	12	8	7	9	5
35～39歳	27	10	12	9	8	10
40～44歳	31	25	8	10	8	7
45～49歳	27	26	24	8	10	8
50～54歳	37	25	30	28	9	12
55～59歳	45	33	23	28	27	8
60～64歳	66	47	33	23	28	26
65～69歳	58	61	47	32	23	28
70～74歳	42	56	58	42	29	21
75～79歳	45	36	53	53	39	28
80～84歳	23	37	27	40	40	30
85～89歳	17	17	23	17	26	27
90歳以上	10	8	9	15	11	17
(女性)						
0～4歳	5	2	4	4	2	2
5～9歳	14	6	3	6	6	4
10～14歳	11	12	5	2	5	4
15～19歳	14	8	14	6	2	7
20～24歳	18	5	5	11	5	1
25～29歳	14	9	1	1	3	2
30～34歳	11	14	5	1	1	2
35～39歳	15	13	17	6	1	1
40～44歳	24	11	9	11	4	1
45～49歳	23	17	10	8	10	4
50～54歳	18	23	19	11	9	11
55～59歳	43	18	20	17	10	8
60～64歳	42	43	18	20	17	10
65～69歳	58	41	40	17	19	16
70～74歳	50	56	42	41	17	19
75～79歳	39	44	56	43	42	18
80～84歳	42	35	38	51	40	39
85～89歳	31	33	37	43	57	44
90歳以上	23	12	28	30	36	49
合計	1,019	845	761	668	570	482

＜西原＞	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	3	0	2	2	2	2
5～9歳	4	5	0	2	2	2
10～14歳	6	4	5	0	2	2
15～19歳	6	7	4	6	0	2
20～24歳	3	0	4	3	4	0
25～29歳	2	1	0	3	3	3
30～34歳	5	4	1	0	1	1
35～39歳	10	3	4	1	0	1
40～44歳	12	13	4	5	1	0
45～49歳	14	12	12	4	5	1
50～54歳	22	11	10	9	3	4
55～59歳	43	21	12	11	10	3
60～64歳	40	45	21	12	11	10
65～69歳	38	40	43	19	11	10
70～74歳	21	28	39	40	18	11
75～79歳	22	16	28	38	39	18
80～84歳	26	11	12	21	29	30
85～89歳	17	18	7	9	15	21
90歳以上	7	7	14	8	8	14
(女性)						
0～4歳	5	4	1	2	0	0
5～9歳	2	4	4	1	2	0
10～14歳	9	2	3	3	1	2
15～19歳	5	9	2	3	3	1
20～24歳	5	1	6	1	3	3
25～29歳	3	4	1	4	2	2
30～34歳	4	2	3	1	3	2
35～39歳	6	5	2	3	1	3
40～44歳	6	8	5	2	3	1
45～49歳	13	7	8	5	2	3
50～54歳	16	13	6	7	5	2
55～59歳	19	15	13	6	7	5
60～64歳	31	21	15	13	6	7
65～69歳	19	30	21	15	13	6
70～74歳	18	19	31	21	16	14
75～79歳	34	15	16	27	18	14
80～84歳	35	29	13	14	24	16
85～89歳	24	23	20	10	10	18
90歳以上	14	12	12	10	5	5
合計	569	469	404	341	288	239

＜秋山＞	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	25	12	10	14	11	6
5～9歳	10	24	17	13	19	14
10～14歳	35	7	26	18	14	20
15～19歳	41	28	9	39	27	20
20～24歳	29	22	29	10	40	28
25～29歳	50	33	7	11	4	15
30～34歳	35	31	33	7	10	4
35～39歳	37	38	28	31	7	10
40～44歳	41	33	41	30	34	7
45～49歳	46	36	32	40	30	33
50～54歳	50	44	34	30	39	28
55～59歳	89	50	43	33	29	38
60～64歳	87	90	49	42	33	29
65～69歳	71	84	89	49	42	32
70～74歳	58	67	82	84	46	40
75～79歳	61	50	61	73	74	42
80～84歳	41	46	40	50	60	62
85～89歳	32	28	28	26	33	39
90歳以上	14	12	11	13	12	16
(女性)						
0～4歳	24	10	6	8	7	2
5～9歳	33	25	10	6	8	6
10～14歳	32	32	26	10	6	8
15～19歳	33	27	39	33	13	8
20～24歳	22	15	22	37	31	12
25～29歳	31	12	5	9	16	13
30～34歳	29	25	10	5	7	14
35～39歳	32	28	26	10	5	7
40～44歳	40	29	31	28	11	5
45～49歳	39	38	30	30	27	10
50～54歳	65	39	38	30	30	27
55～59歳	68	62	39	37	30	30
60～64歳	79	65	62	38	35	29
65～69歳	63	79	65	62	39	36
70～74歳	56	61	76	62	60	37
75～79歳	60	52	58	74	59	59
80～84歳	55	54	44	51	65	52
85～89歳	35	40	41	35	40	51
90歳以上	29	16	30	29	26	30
合計	1,677	1,445	1,327	1,207	1,079	919

独自推計パターン4の推計値詳細（パターン4と独自推計（基準値）の差分）

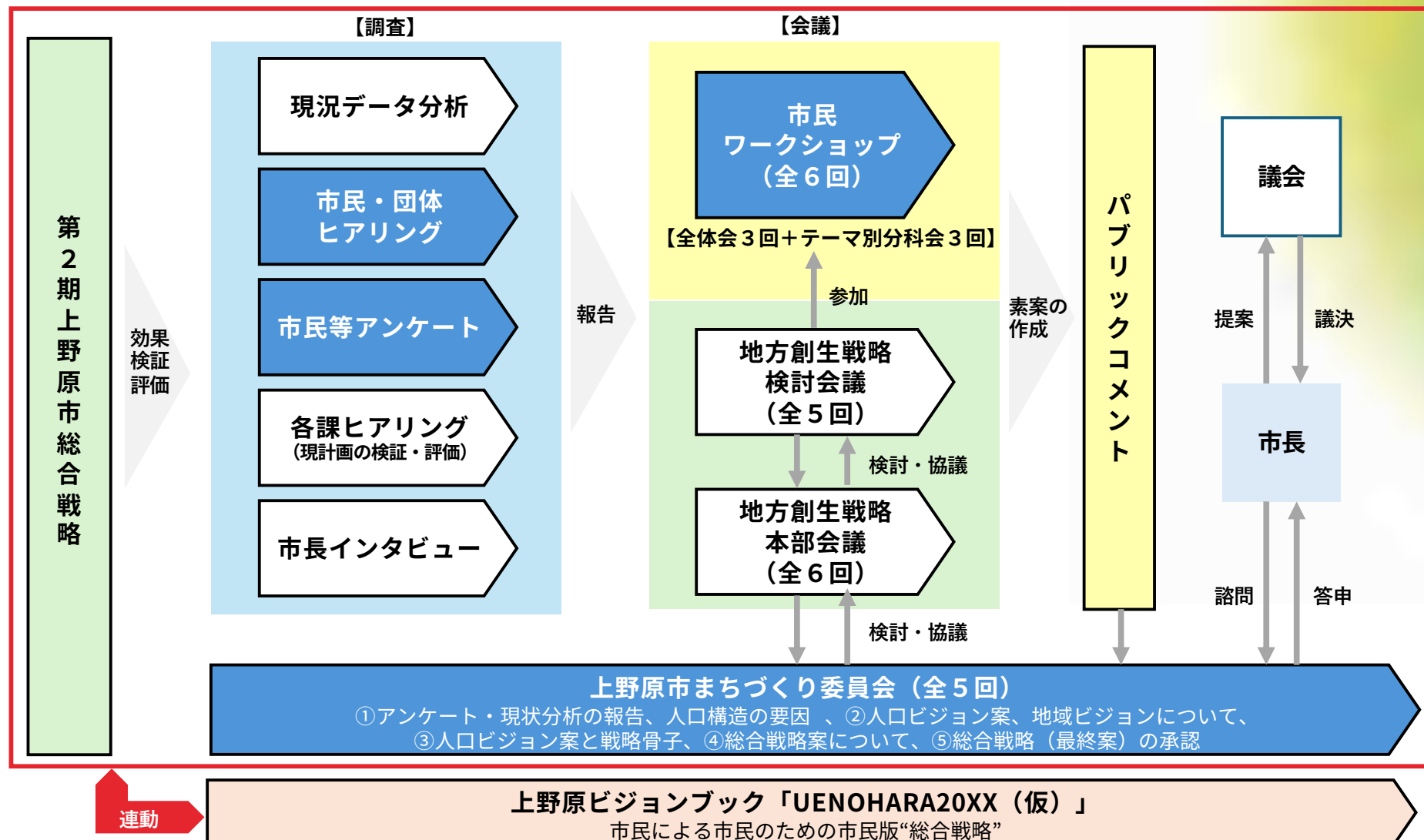
	2030年推計			2035年推計			2040年推計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	221	121	100	194	106	88	173	94	79
5歳～9歳	3	2	1	236	129	107	208	113	94
10歳～14歳	1	1	0	4	2	2	237	128	109
15歳～19歳	23	13	9	19	12	7	20	12	8
20歳～24歳	7	2	5	29	16	14	24	15	9
25歳～29歳	83	50	33	76	41	35	85	46	39
30歳～34歳	13	7	7	87	52	35	79	43	37
35歳～39歳	2	1	1	15	8	8	88	52	37
40歳～44歳	1	0	0	4	2	2	17	8	9
45歳～49歳	1	1	0	2	1	1	5	3	2
50歳～54歳	1	1	0	2	2	0	3	2	1
55歳～59歳	2	1	2	3	1	2	4	3	1
60歳～64歳	3	2	1	5	2	3	5	2	2
65歳～69歳	2	1	1	5	3	2	7	3	4
70歳～74歳	2	0	2	5	2	3	7	4	3
75歳～79歳	0	0	0	2	0	2	5	2	3
80歳～84歳	0	0	0	0	0	0	2	0	2
85歳～89歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90歳～94歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	366	203	163	688	379	309	967	529	438

IV 上野原市みらい戦略

1 市民からの意見聴取

市民意向の把握と策定の流れ

上野原市みらい戦略（2025-2030）



調査の目的

- 本調査は、新たな総合戦略の策定に当たって、市民の皆さまが日常感じている生活環境や出産・子育て・教育環境、若者の移住の推進などに対する課題などを率直にお伺いし、市民の皆さまのニーズを踏まえた総合戦略立案を進めていくことを目的として実施しました。

調査の概要

- 調査対象は、上野原市に在住の18歳以上70歳未満の男女の中から無作為に抽出した1,500名を対象に配布・回収を行い、令和6年3月4日から3月25日までを調査期間として実施しました。配布数1,500票に対し回収数は638票、回収率は42.5%でした。

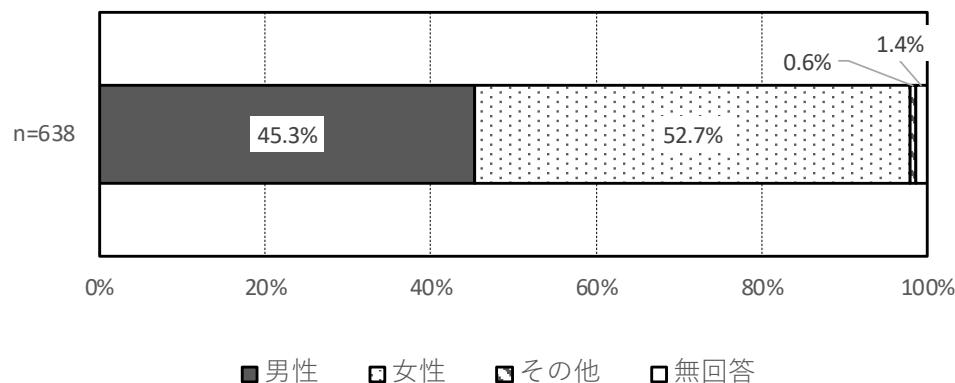
▼調査結果概要

調 査 対 象	上野原市に在住の 18 歳以上 70 歳未満の男女
抽 出 方 法	無作為抽出
調 査 方 法	郵送による配布・回収及び WEB による回答
調 査 時 期	令和 6 年 3 月
配 布 数	1,500 票
回 収 数	638 票
回 収 率	42.5%

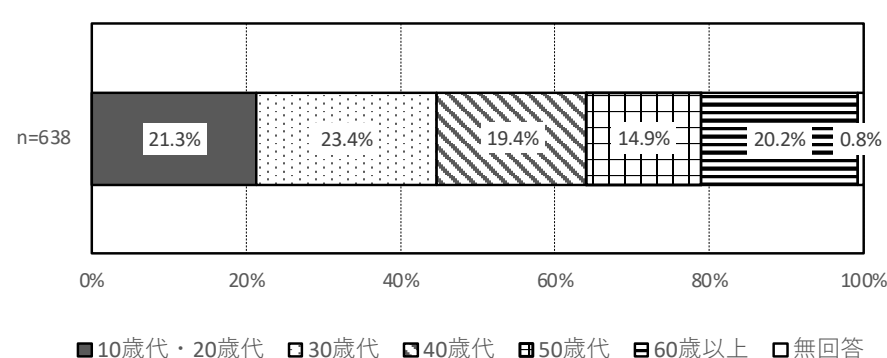
回答者の属性

- 年齢・性別ともにバランスよく回答を得られたが、世帯構成は、前回調査から「二世帯同居」が大幅に減少しています。

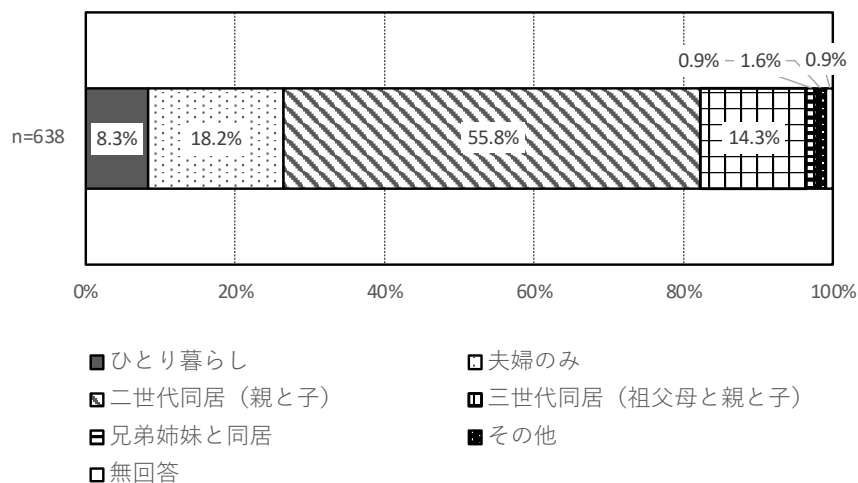
▼性別



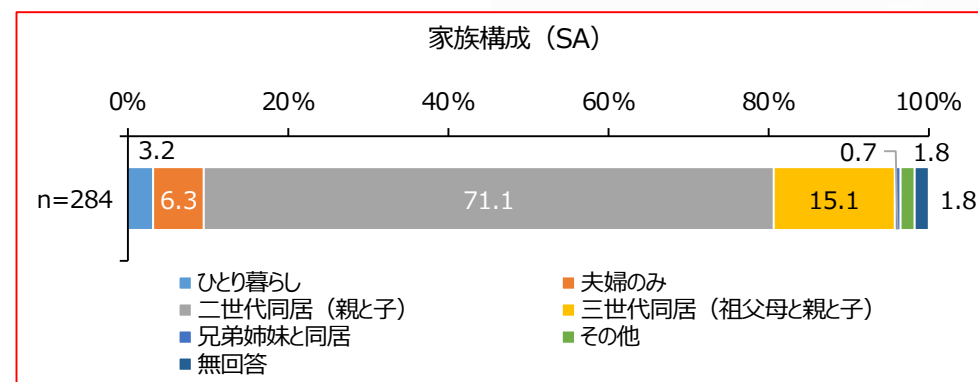
▼年齢



▼世帯構成



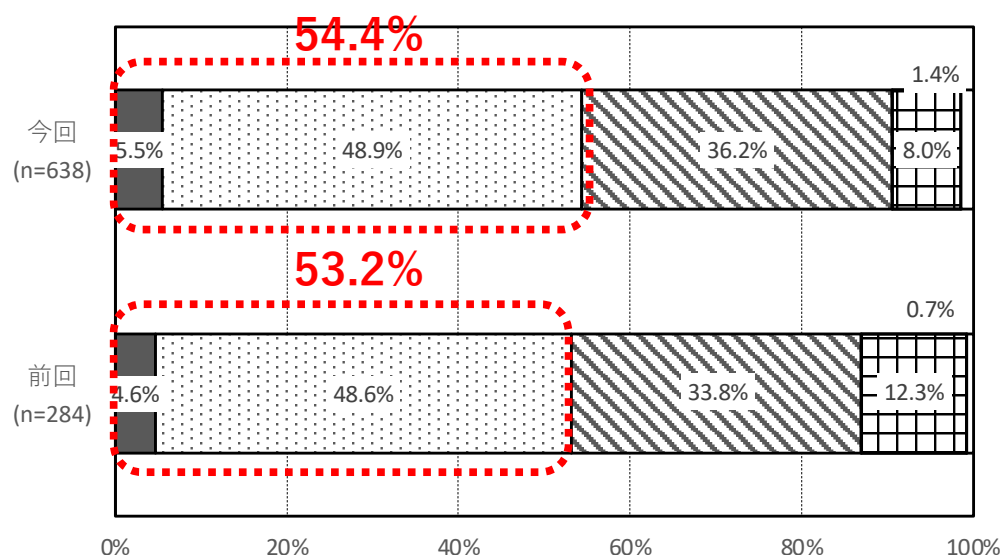
▼世帯構成（前回調査）



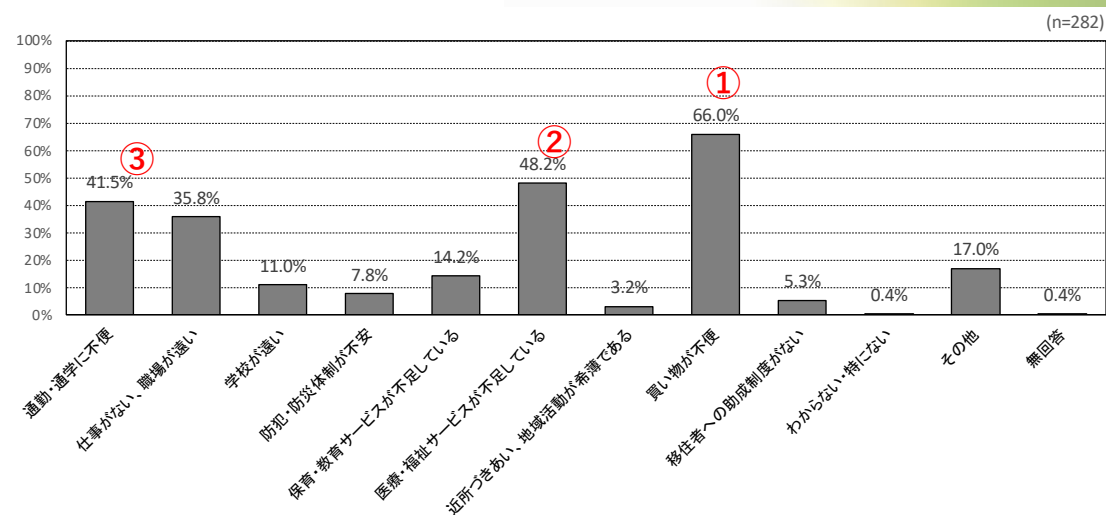
住みやすさ

- 住みやすさについては、前回調査と同水準の結果となっています。（「とても住みやすい」＋「まあまあ住みやすい」の合計、今回：54.4%、前回：53.2%）
- 住みにくい理由としては、「買い物が不便」、「医療・福祉サービスが不足している」、「通勤通学に不便」の順で高くなっています。

▼住みやすさ



▼住みにくい理由

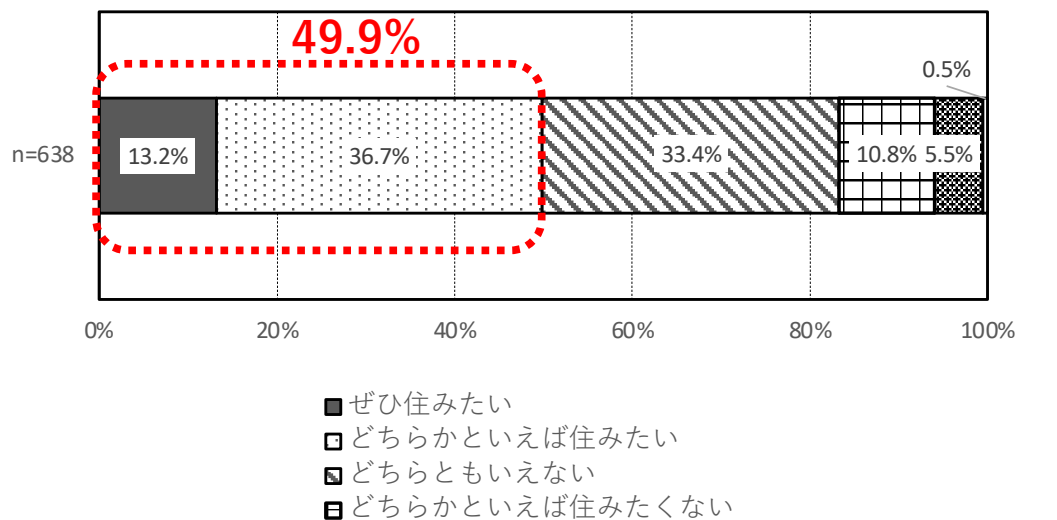


■とても住みやすい ■まあまあ住みやすい ■やや住みにくい
 ■とても住みにくい □無回答

今後の居住意向

- 今後の居住意向は、上野原市が49.9%、山梨県が76.5%（「ぜひ住みたい」、「どちらかといえば住みたい」の合計）となっており、県と比較して約25ポイント低くなっています。
- 性別でみると、男性が41.9%で低くなっており、年齢別でみると、30歳代が43.0%で低くなっています。

▼今後の居住意向（上野原）



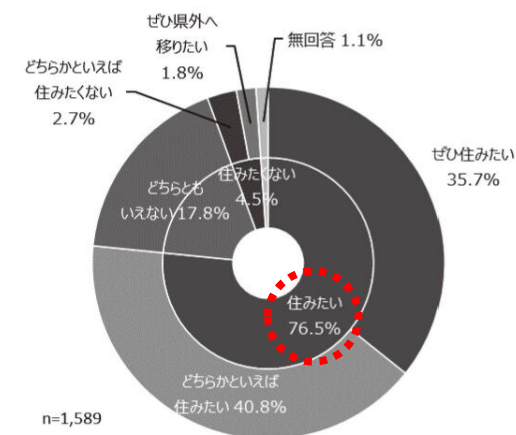
	横%	ぜひ住みたい	どちらかといえ ば住みたい	どちらとも いえない	どちらかといえ ば住みたくない	ぜひ市外へ 移りたい	無回答
	n(Total)						
Total	638	13.2%	36.7%	33.4%	10.8%	5.5%	0.5%
10歳代・20歳代	136	16.9%	28.7%	33.8%	11.0%	9.6%	0.0%
30歳代	149	7.4%	35.6%	35.6%	14.8%	6.7%	0.0%
40歳代	124	19.4%	33.9%	33.9%	9.7%	3.2%	0.0%
50歳代	95	11.6%	37.9%	36.8%	9.5%	4.2%	0.0%
60歳以上	129	11.6%	48.8%	25.6%	8.5%	3.1%	2.3%
無回答	5	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Totalとの有意差検定（n<30を除く）

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

▼今後の居住意向（山梨県）

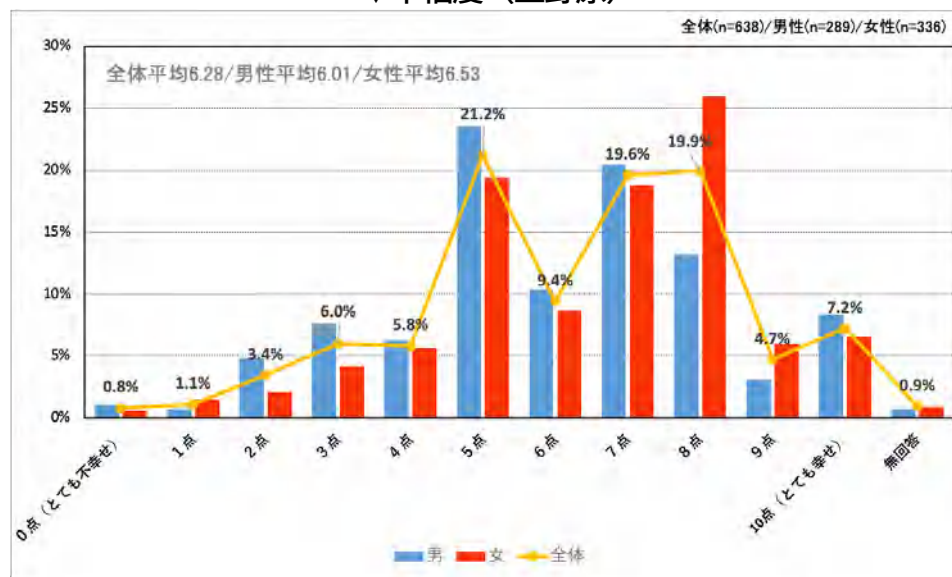
問2 あなたは、山梨県にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



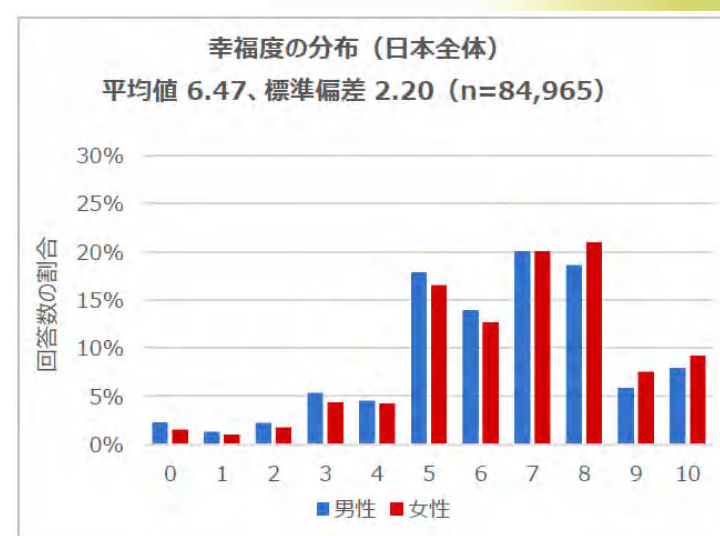
市民の幸福度

- 上野原市の幸福度は、全国とほぼ同水準となっています。（-0.19ポイント）
- 性別でみると、女性が6.5ポイントと高く、年齢別でみると、40歳代、50歳代がそれぞれ6.6ポイントと高くなっています。

▼幸福度（上野原）



▼幸福度（令和5年度全国調査結果）



	横%	0点 (とても不幸せ)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
	n(Total)												
Total	638	0.8%	1.1%	3.4%	6.0%	5.8%	21.2%	9.4%	19.6%	19.9%	4.7%	7.2%	0.9%
男性	289	1.0%	0.7%	4.8%	7.6%	6.2%	23.5%	10.4%	20.4%	13.1%	3.1%	8.3%	0.7%
女性	336	0.6%	1.5%	2.1%	4.2%	5.7%	19.3%	8.6%	18.8%	25.9%	6.0%	6.5%	0.9%
その他	4	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10歳代・20歳代	136	0.0%	1.5%	3.7%	12.5%	5.9%	16.9%	8.1%	21.3%	19.1%	4.4%	5.9%	0.7%
30歳代	149	2.0%	2.0%	5.4%	5.4%	5.4%	26.8%	10.1%	14.8%	14.1%	3.4%	10.7%	0.0%
40歳代	124	0.8%	0.8%	3.2%	2.4%	5.6%	18.5%	8.9%	21.0%	23.4%	8.1%	7.3%	0.0%
50歳代	95	0.0%	1.1%	1.1%	4.2%	5.3%	23.2%	11.6%	17.9%	22.1%	5.3%	8.4%	0.0%
60歳以上	129	0.8%	0.0%	3.1%	4.7%	6.2%	20.2%	9.3%	22.5%	23.3%	3.1%	3.9%	3.1%
無回答	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%

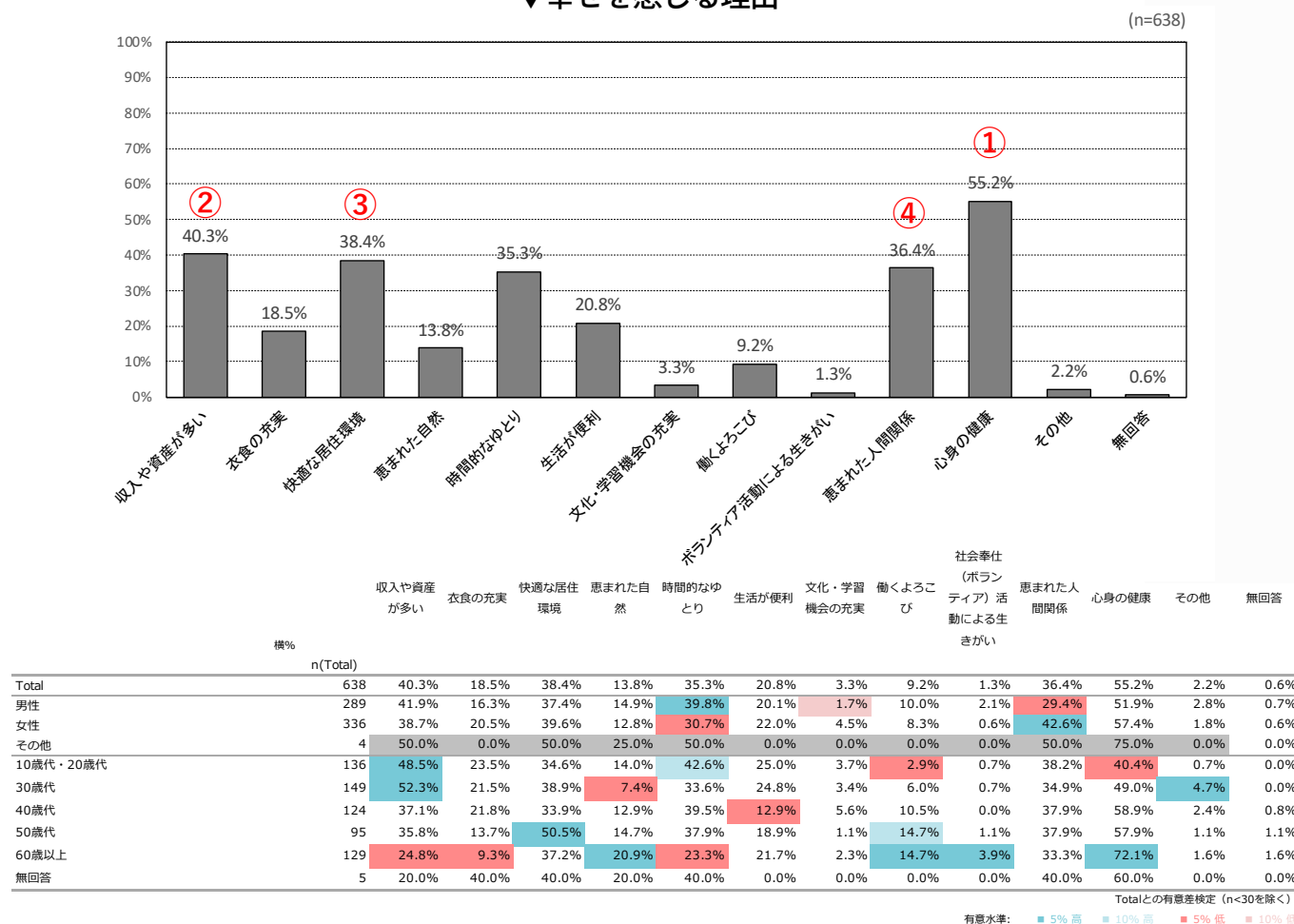
Totalとの有意差検定 (n<30を除く)

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

幸せを感じる理由

- 幸せを感じる理由は、「心身の健康」、「収入や資産が多い」、「快適な居住環境」、「恵まれた人間関係」の順となっています。
- 性別では、「女性が恵まれた人間関係」が高く、年齢別では、10歳代・20歳代で「時間的なゆとり」が、30歳代で「収入や資産が多い」が高くなっています。

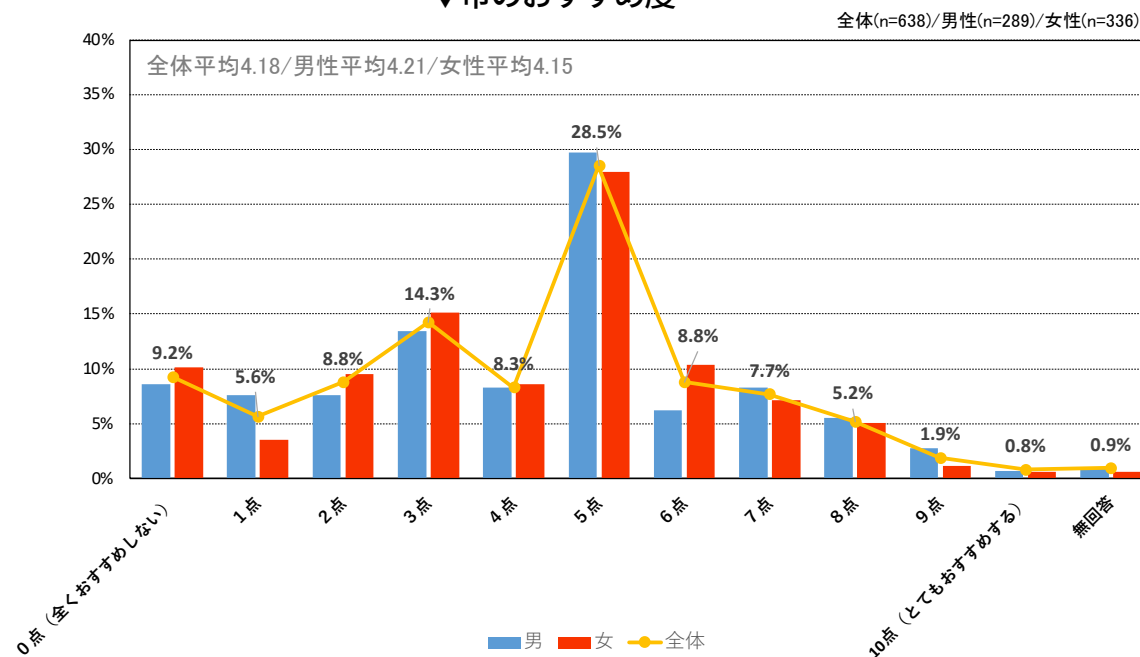
▼幸せを感じる理由



上野原市のおすすめ度

- 市のおすすめ度は、平均で4.18ポイントで、男女ともに3割弱が5点を選び、8点以上をつけた方は1割弱となっています。
- 年齢別では、30歳代が平均3.7ポイントと低くなっています。

▼市のおすすめ度

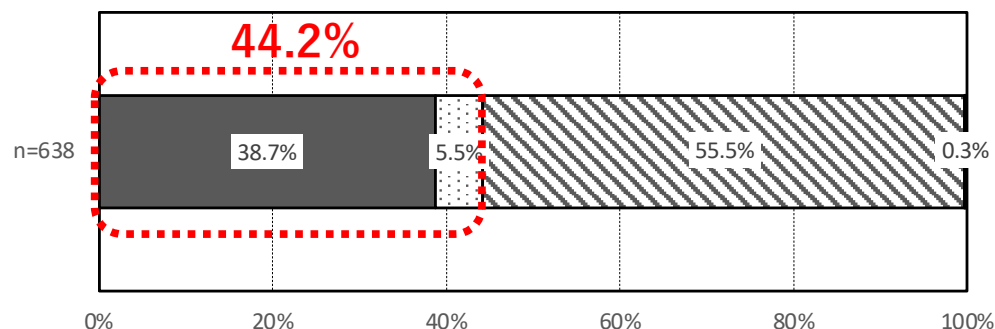


	横%	無回答	平均値	中央値	標準偏差
n(Total)					
Total	638	0.9%	4.2	5	2.33
10歳代・20歳代	136	0.7%	4.4	5	2.55
30歳代	149	0.7%	3.7	4	2.53
40歳代	124	0.8%	4.3	5	2.35
50歳代	95	1.1%	4.4	5	2.04
60歳以上	129	1.6%	4.1	5	1.94
無回答	5	0.0%	4.6	5	2.19

結婚の状況

- 結婚の状況については、44.2%が未婚となっています。特に10歳代・20歳代で87.5%、30歳代で53.1%と高くなっています。
- 必要な結婚の支援としては、「働く場の創出支援」、「住まいの支援」、「結婚祝い金など経済的支援」の順で高くなっています。

▼結婚の状況



■ 独身（未婚）

□ 独身（婚姻歴あり）

■ 既婚（事実婚を含む）

□ 無回答

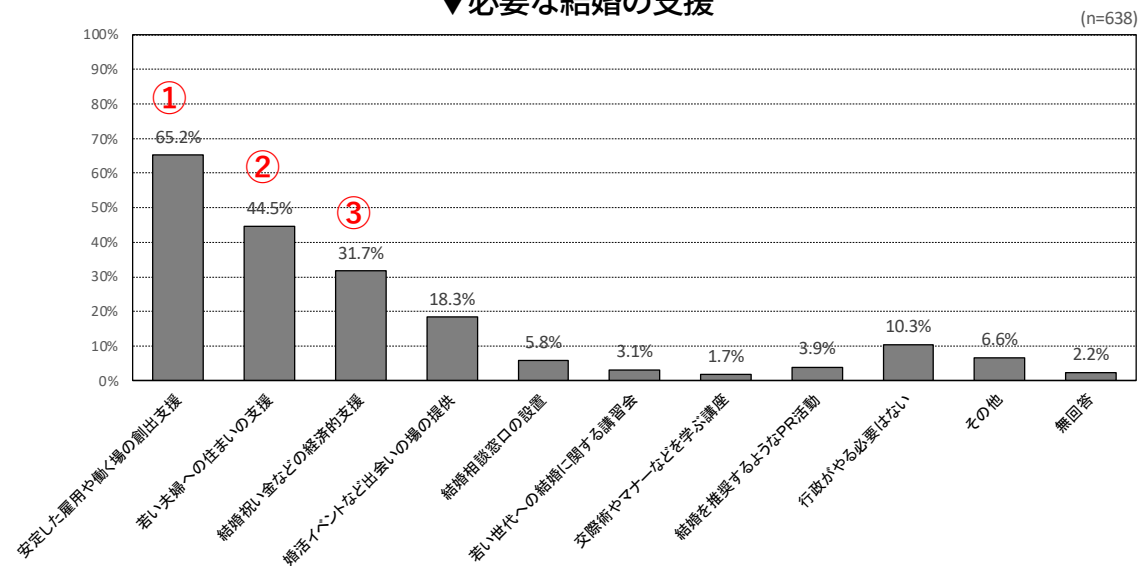
▼結婚の状況（年代別）

	横%	独身（未婚）	独身（婚姻歴あり）	既婚（事実婚を含む）	無回答
	n(Total)				
Total	638	38.7%	5.5%	55.5%	0.3%
10歳代・20歳代	136	86.0%	1.5%	12.5%	0.0%
30歳代	149	45.0%	8.1%	47.0%	0.0%
40歳代	124	26.6%	4.0%	68.5%	0.8%
50歳代	95	10.5%	8.4%	81.1%	0.0%
60歳以上	129	14.0%	6.2%	79.1%	0.8%
無回答	5	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%

Totalとの有意差検定（n<30を除く）

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

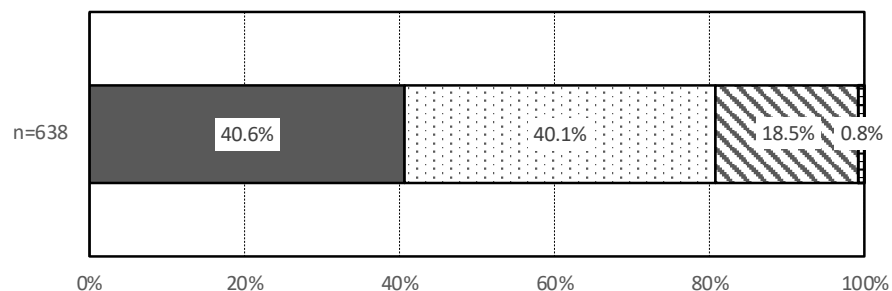
▼必要な結婚の支援



見ている情報媒体の状況

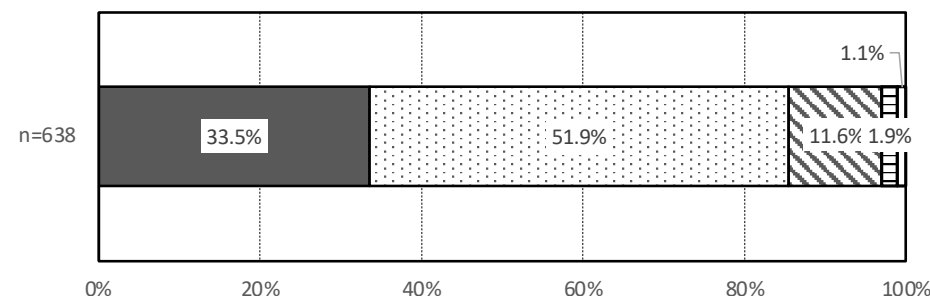
- 市広報は、約8割の方が読んでおり、年齢が高くなるほど読まれています。
- 市ホームページは、3割強の方が見ており、市SNSは3割弱の方が見ています。

▼広報



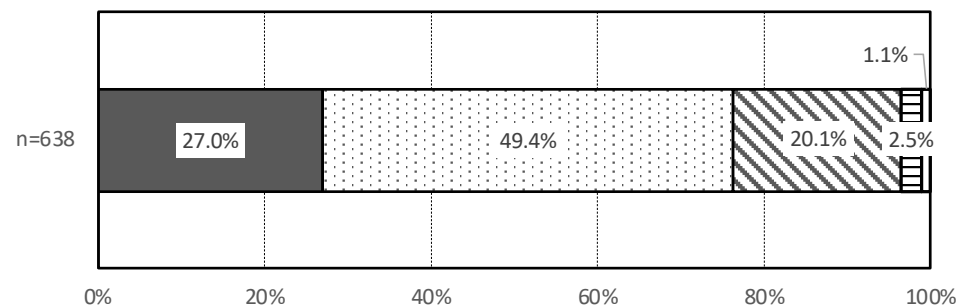
■毎月読んでいる □ときどき読んでいる ▨読んでいない □無回答

▼市ホームページ



■見ている □見ていない ▨見たことがない □見られない □無回答

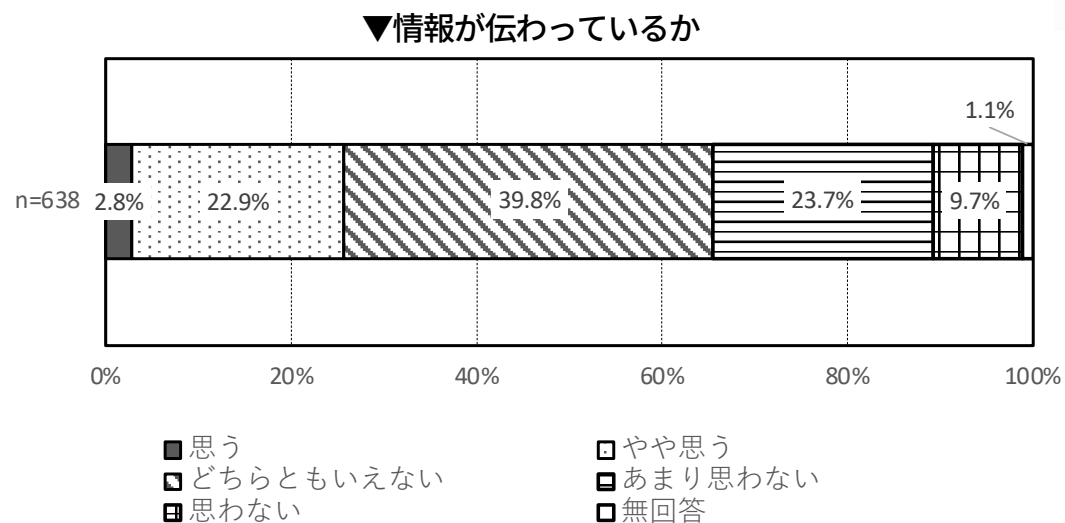
▼市SNS



■見ている □見ていない ▨見たことがない □見られない □無回答

情報発信の状況

- ・ 情報が伝わっていると感じる市民の割合は25.7%となっています。
- ・ 年齢別では、30歳代で伝わっていると感じる方が、17.5%と低くなっています。



	横%	思う	やや思う	どちらとも いえない	あまり思わ ない	思わない	無回答
	n(Total)						
Total	638	2.8%	22.9%	39.8%	23.7%	9.7%	1.1%
10歳代・20歳代	136	2.2%	24.3%	38.2%	27.9%	6.6%	0.7%
30歳代	149	3.4%	14.1%	40.3%	26.8%	14.8%	0.7%
40歳代	124	1.6%	21.8%	43.5%	19.4%	13.7%	0.0%
50歳代	95	4.2%	27.4%	35.8%	23.2%	7.4%	2.1%
60歳以上	129	3.1%	28.7%	40.3%	20.9%	4.7%	2.3%
無回答	5	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%

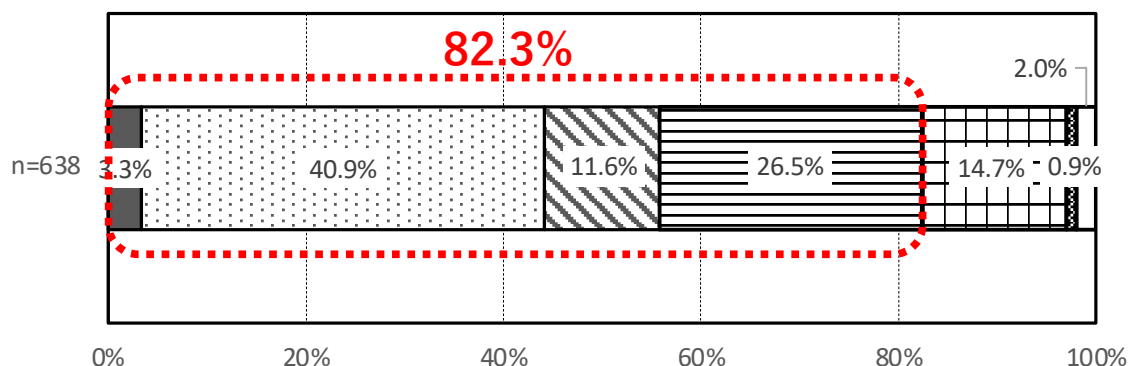
Totalとの有意差検定 (n<30を除く)

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

地域活動への参加意欲

- 地域活動に何かしらの協力したい方（「特に参加も協力もしたくない」、「その他」、「無回答」を除いた数）は、8割以上となっています。
- 年齢別でみると、30歳代で「特に参加も協力もしたくない」の割合が高くなっています。

▼地域活動への参加



- 積極的に参加
- ▨ 地域や市から求められれば参加
- ▩ 特に参加も協力もしたくない
- 無回答
- ▩ 内容によっては参加
- ▨ 参加はできないが何らかの協力
- ⊠ その他

	横%	積極的に参加したい	内容によっては参加したい	地域や市から求められれば参加したい	参加はできないが何らかの協力はしたい	特に参加も協力もしたくない	その他	無回答
	n(Total)							
Total	638	3.3%	40.9%	11.6%	26.5%	14.7%	0.9%	2.0%
10歳代・20歳代	136	2.2%	41.2%	14.7%	20.6%	19.1%	0.0%	2.2%
30歳代	149	3.4%	28.2%	13.4%	30.9%	21.5%	1.3%	1.3%
40歳代	124	4.0%	44.4%	8.9%	29.0%	12.1%	1.6%	0.0%
50歳代	95	2.1%	49.5%	10.5%	24.2%	11.6%	1.1%	1.1%
60歳以上	129	4.7%	46.5%	10.1%	26.4%	7.0%	0.0%	5.4%
無回答	5	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%

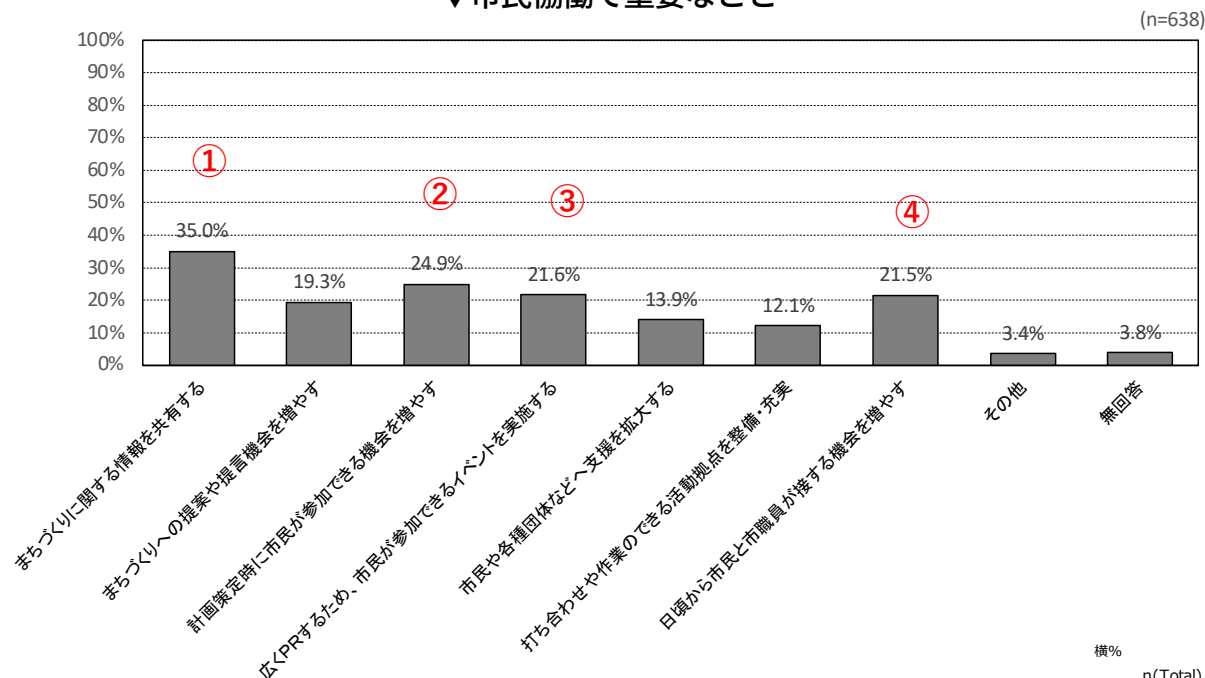
Totalとの有意差検定 (n<30を除く)

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

市民協働に重要なこと

- 市民協働のために重要なことは、「まちづくりに関する情報を共有する」、「計画策定時に市民が参加できる機会を増やす」、「市民課参加できるイベントを実施する」、「日頃から市民と市職員が接する機会を増やす」の順で多くなっています。
- 年齢別でみると、40歳代で計画策定への参加の割合が高くなっています。

▼市民協働で重要なこと



まちづくりに関する情報（行政からの情報・市民が持つ情報）を共有する

まちづくりへの提案や提言機会を増やす

まちづくりに関する計画をつくる際に、市民が参加できる機会を増やす

市民協働によるまちづくりの考え方を広くPRするため、市民が参加できるイベント・事業を実施する

市民や各種団体などの主体的なまちづくり活動の支援を拡大する

市民が打ち合わせや作業の準備・充実

日頃から市民と市職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める

その他

無回答

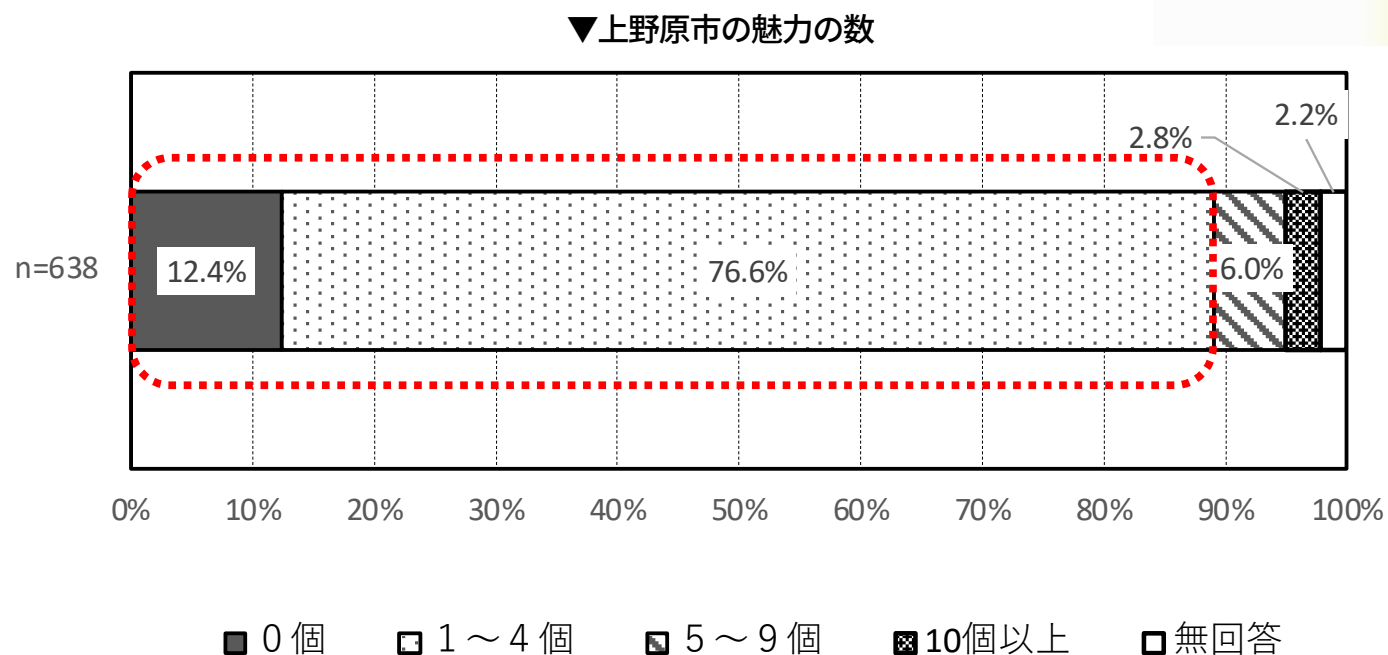
	横%	n(Total)								
Total	638	35.0%	19.3%	24.9%	21.6%	13.9%	12.1%	21.5%	3.4%	3.8%
10歳代・20歳代	136	38.2%	20.6%	24.3%	17.6%	13.2%	15.4%	20.6%	1.5%	5.1%
30歳代	149	38.3%	16.8%	26.8%	22.8%	12.1%	9.4%	23.5%	3.4%	2.7%
40歳代	124	27.4%	18.5%	30.6%	21.8%	16.1%	9.7%	25.8%	4.8%	2.4%
50歳代	95	32.6%	17.9%	24.2%	25.3%	12.6%	13.7%	16.8%	6.3%	2.1%
60歳以上	129	38.0%	23.3%	17.8%	21.7%	16.3%	11.6%	18.6%	1.6%	6.2%
無回答	5	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%

Totalとの有意差検定（n<30を除く）

有意水準: ■ 5% 高 ■ 10% 高 ■ 5% 低 ■ 10% 低

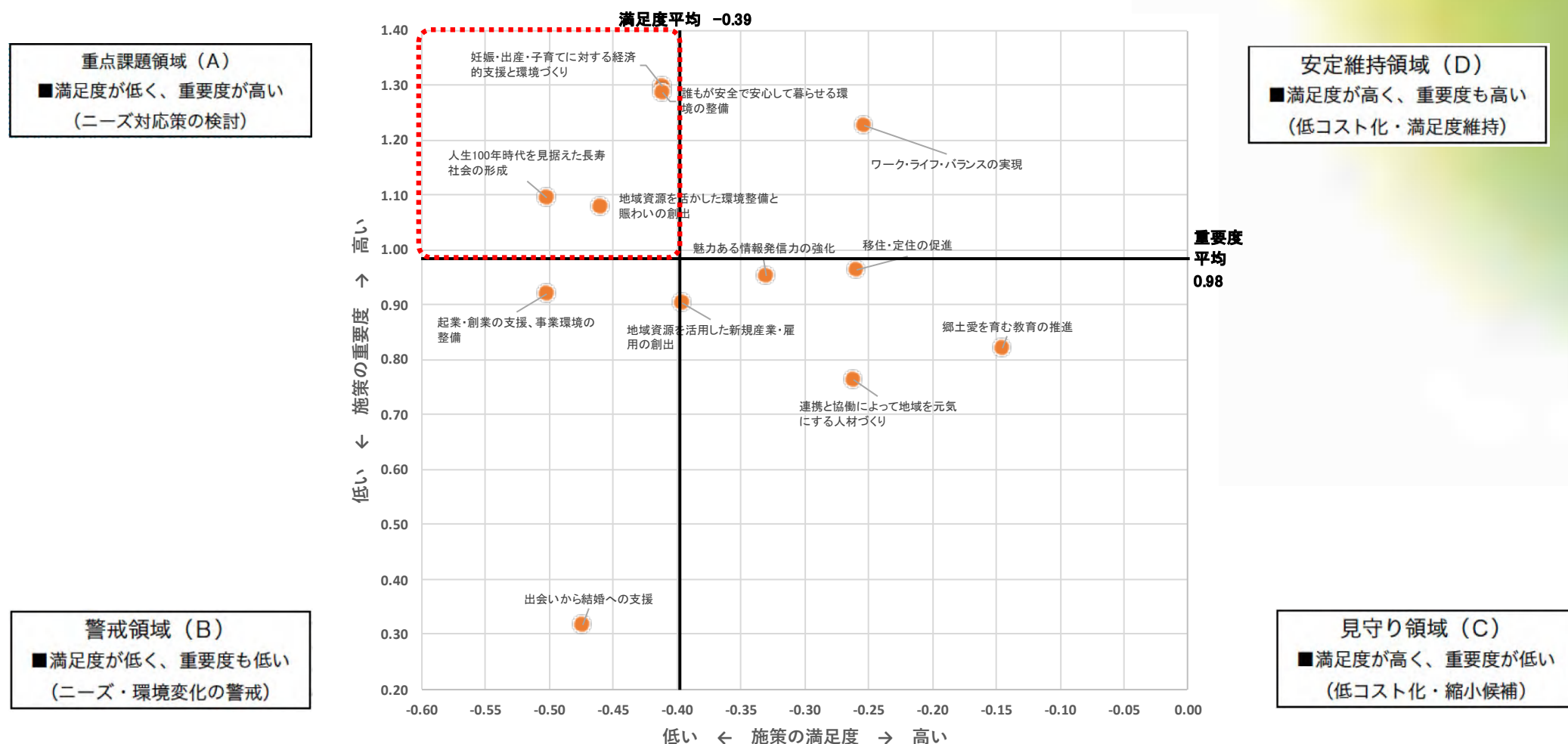
● 上野原市の魅力を挙げられる数

- 答えられる上野原市の魅力は、1～4個が約76.6%と最も多くなっており、9割弱が4個未満となっています。
- 10個以上、上野原市の魅力の数を答えられる方は、3%以下となっています。



施策の重要度と満足度

- 重要課題領域は、妊娠・出産・子育てに対する経済的支援と公共交通など誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備、地域医療など人生100年時代を見据えた長寿社会の形成、農業、観光など地域資源を活用した新規産業・雇用の創出となっている。



うえのはら未来会議とは

- うえのはら未来会議とは、上野原に暮らしている人たちと市と一緒に「みんなが自慢できる上野原やこんな上野原だったらいいな」を考え、実践していくための話し合いの場です。10月まで開催した未来会議では、移住・定住だけではなく、創業や雇用創出、結婚、子育て、福祉、教育、市民協働など、上野原に住んでいてよかったと、こころ豊かに暮らすための方法について全6回で考えました。



- ・第1回 2024年4月27日（土） 上野原を「まだ、知らないだけ。」
- ・第2回 2024年6月8日（土） わたしの未来とまちの未来を想像しよう
- ・分科会 移住、子育て、教育などテーマ毎に具体的な取組を検討
 - 【分科会①】2024年7月13日（土）ペルソナ・ストーリーづくり
 - 【分科会②】2024年8月10日（土）企画・事業計画づくり
 - 【分科会③】2024年10月5日（土）情報発信・プレゼンテーション
- ・第3回 2024年10月19日 大発表＆交流会

上野原の将来像と強みと弱みについて

10年後の上野原を、

- 子ども達が楽しく、わいわいと遊べる場所をつくって、上野原の方々が楽しく暮らせるまち
- 日本一の人口増加率を誇り、街の中で WAKU WAKU の毎日をご過ごせる人達であふれる
- 観光客であふれるまち
- (都会の人が次に住みたい) 住みやすい、ちょうど良い田舎のまち
- 山や森林の環境が良くなる動きをつくれるまち
- 地域で衣・食・住に必要なものがつくられ・使われて循環していくまち
- 自然と共存する / 市民が上野原にプライドを保てる / 県内で一番子どもにやさしいまち
- 農業で食べていけるまち
- 住んでいてよかったなあと思える / 若い人たちがずっと住んでいたい / 楽しいこといっぱいの人に注目されるまち
- 自信を持って紹介できるまち
- 子ども達のにぎやかな声と高齢者の明るい話し声が上手くマッチングした子育て環境の充実したまち
- 心おだやかに、みんなのつながりがあるまち
- 自然の中で地域の人が笑顔で協力しあえるまち
- 社会教育とモノづくりの盛んな若者が挑戦できるまち / 若者の起業が盛んなまち



にします！

必要な取り組み

- 子どもが安全に遊べる場所をつくる
- 地域に住む人同士が安心できる人間関係
- ライドシェアの活用
- 人材活用
- 市民活動の活発化、見える化
- インバウンド客を集める施設（英語、田舎体験）
- 空き家のリノベーション
- 上野原といえば・・・みたいなものを見つける
- 森林整備→林業者への支援
- 自ら町のこれからを市と協力してつくりあげる
- 上野原のまちに持続的にお金が入ってくるしくみをつくる
- 農業自給率、耕作放棄地
- 周知方法を改めてみる
- 地域コミュニティや人と人のつながりをつくる
- お祭りや伝統行事などの PR 活動
- 廃校跡地の利用（廃校アート、映画祭）

強み（資源）と弱み（課題）

- 上野原で働きたい→職がない
↳ 企業の誘致、IT（リモート、在宅）
- 上野原に住みたい→住むところがない
↳ アパートや公園の整備など
- 子育てしたい→預けるところがない
↳ 遅くまで預けられる所
↳ 救急の病院
- ミューの森のさらなる PR+道の駅の整備
- デマンドタクシーの導入
- 自然の美しさ、心温かい人、個性的で面白い人が住んでいる
- 市にあるものを端から端まで見る。秋山金山、無生野念仏もあった
- 若者に向けての宣伝方法
- 森林の環境整備
- 自信をもって住みやすいといえることがまだピンとこないから、3つ以上言えるようにしたい。時間が足りなさそうです。

うえのはら未来会議からの提案①

NO	プロジェクト名	概要
1	おすそ分けシステムプロジェクト	・余った野菜やキズのついた野菜などを活用し、調理しておすそ分けするシステム（地元農家や料理上手な方が調理）
2	市内交通改善プロジェクト	・市内にあるあらゆるバスやタクシーなどを活用して、便利な公共交通へ改善を図るプロジェクト
3	駅及び駅周辺を活用した交流イベントプロジェクト	・駅舎や駅前を活用してマルシェなど市内、市外の方が参加する交流イベントを開催するプロジェクト
4	上野原案内人プロジェクト	・引っ込み思案な大学生や地域に関わりたい人などに、積極的に上野原の面白い人や場所を紹介するプロジェクト
5	みんなのカフェプロジェクト	・子育て中のママや子育ての落ち着いたママが気軽に集まれるカフェをつくるプロジェクト（ママの趣味や特技を持ち寄ってお店づくりを行う）
6	せいだ芋のブランド化、子どもへの食育プロジェクト	・子どものうちから上野原産の産品（せいだ芋などを中心）を食べてたり、学んだりすることで食育の推進を図り、せいだ芋のブランド化を図るプロジェクト
7	空きバスの活用プロジェクト	・保育園や学校、市役所などのバスで空いている時間帯に、市内を走ってもらい交通難民の解消を図るプロジェクト
8	農業体験、就農支援プロジェクト	・移住希望者などに農業体験などで上野原に訪れてもらいながら、徐々に空き家や仕事などをマッチングしていくプロジェクト ・農地バンクによるマッチングの推進
9	自然・地形を活かした文化・歴史の継承プロジェクト	・ジオパークの検討などを契機に、安全な森林環境の整備、パトロールや観光ボランティアの育成、木の活用などを行い、若い世代へ継承するプロジェクト
10	自然満喫プロジェクト	・子どもが自然と触れ合える場所をつくるプロジェクト。廃校や荒廃地などを活用し、ツリークライミング、川遊び、釣り、ハンモック、キャンプなどができる場所づくり
11	上野原の魅力発信プロジェクト	・上野原の魅力的な人、もの、ことをSNSで発信しするプロジェクト ・SNSでのフォトコンテストの開催
12	シニア世代いきいきプロジェクト	・経験、知識が豊富なシニア世代の居場所づくりを行いながら、創業支援や若い世代へのノウハウ継承を行うプロジェクト
13	「区」の活性化プロジェクト	・人口減少や高齢化などにより区の育成会なども活動できなくなったため、育成会に代わる若い世代へむけたイベントなどを行い、区を活性化するプロジェクト

うえのはら未来会議からの提案②

NO	プロジェクト名	概要
14	子育て満喫⇒社会復帰プロジェクト	・貴重かつ大切な子育て期間を満喫してもらい、子育てを楽しんでもらってからしっかりと社会復帰することを目指すプロジェクト
15	高校生のまちへの愛着醸成プロジェクト	・上野原の高校生に「上野原に残りたい」「上野原に戻ってきたい」「上野原を応援したい」と思ってもらえるように、まちとの関わりをつくるワークショップを開催するプロジェクト
16	空き家バンクの活用プロジェクト	・空き家バンクの移住希望者は200人以上いるため、空き家バンクへの登録を促すプロジェクト
17	市役所職員のモチベーションアッププロジェクト	・職員の個性を活かし挑戦できて、しっかりと頑張りが評価される仕組みをつくるプロジェクト
18	撮影受入振興都市プロジェクト	・少ない費用で効果を出すため、積極的にドラマや映画などの撮影を受入れ、ロケツーリズムの推進を図るプロジェクト
19	ハレノヒプロジェクト	・趣味や部活、恋愛などの舞台として上野原があるようにすることで、上野原で思い出や記念日をつくってもらえるプロジェクト
20	ワールドカフェプロジェクト	・日頃の困ったことややりたいことなどを日常的に持ち寄って、気軽に話し合う場をつくるプロジェクト
21	みんなで応援プロジェクト	・イベントなどはもちろんのこと、頑張っている人、挑戦している人をまわりの人が積極的に応援するプロジェクト（チアでの応援も）

市民団体・事業者等ヒアリングについて①

- 市内観光事業者や交通事業者、子育てサークル、青年会議所等市内の事業者・活動団体の18団体について、活動状況や課題、今後の展望についてヒアリング調査を行いました。

分野	概要
観光	・市内に大きな観光資源がないため、小さな観光資源となりうるものを磨き上げていきたい。その活動を象徴するジオパークの認定、推進。 ・高尾・相模湖エリアの観光客を引っ張ってこられるような動きをしたい。 ・観光については、「まだ、知らないだけ。」ではなく「知らせないだけ」の状況だと思っているため、どのように情報発信を行っていくかが課題で、ジオパークを中心に盛り上げていきたい。 ・課題は、市全体としての理解がないところと、市役所との連携。ジオパーク関係の有識者や連携する人材を確保ということも課題。
交通	・上野原の乗車客数は年間4000人くらい(乗降で考えるとその倍)。県内で言うと甲府の次に大月・上野原が乗客数は多い。 ・来年春から、中央線特急(特快)の大月―東京間でグリーン車を導入する予定。 ・「あきやまがかり」と一緒に秋山エリアを回る企画をやったり(駅ハイク)、直近は肉フェスへの出店などイベント関連は直接市(観光課)とJR東日本とで連携しているため、そういった鉄道部門以外での連携も増やしていきたい。 ・大月駅近辺はほぼインバウンドの観光客だが、上野原はじめ県内へと周遊させるのが課題。 ・バスについては、路線の維持・廃止などについて話し合っている状況。少ないから廃線というのではなく、もう少し前向きな議論ができればと思う。 ・バス利用者はずっと減少しており、便を増加させる要素は今のところ検討が付かない。 ・バスの運転手の確保が課題。拘束時間の制限が厳しくなったが、なり手がいない。 ・観光路線をもっと検討していきたい。 ・タクシーの台数は6台あるが、運転士がおらず3～4台が稼働している状況。上野原全体では14台程度が稼働。現状は、1台に対して1.2人の状況だが、理想は1.8人くらいまでであるとよい。 ・デマンドタクシーは1日8便(10名)くらいの利用がある。

市民団体・事業者等ヒアリングについて②

分野	概要
子育て	・上野原には複数の子育て団体があるが、子どもがそんなに多くないのでうまく連携できていない状況。 ・子育て中の方は、子どもの遊び場の問題があり、これから出産する方には産後ケアの問題がある。産婦人科がないけど上野原ってみんな出産しているよねみたいな風潮ができたらいと思っている。 ・産婦人科や医療系が弱いので、助産師や保育士の免許を持っている方がメンバーにいて情報共有や子育て教室みたいなことをやっている。 ・産後ケア施設みたいなものがないため、充実させたい。また相談先の機関がないため、八王子か石和に行く状況。 ・子どもを連れていける飲食店やカフェみたいなものがほぼないのであったらいいと思っている。 ・産後ケアや助産師さんなどの相談先の情報を、市としてまとめて発信してもらいたい。 ・病院（小児など）はすぐにできないと思うが、都内の病院に行く高速代や子育てにかかる費用の負担をするなど支援があれば、もう少し子育て世代も関心が高まると思う。 ・市でやっているファミサポ（預け先の個人宅に預ける感じ）がもう少しうまく機能してもらいたい
工業団地	・電車でのアクセスはよく、環境は良好。 ・ニッチな業界ではあるが、何十年も国内の会社だけを相手にやってきた。国内は下火になってくるとも懸念をして海外への進出を始めている。 ・課題は人材確保。上野原での現地採用もしているが、足りていない。外国人採用でベトナムの方を入れてみたこともあるが、言葉の障壁が高いことや技術流出も懸念している。 ・工業団地には、優良企業もあるので、市として情報発信は力を入れてやってほしい。 ・年数が経って産廃業者などが増えているので、環境の維持も課題。土壌汚染などがあれば、工業団地全体の問題になる。 ・中途採用は即戦力でいいのだが、変な癖がついている人もいるので、全く関係ない業種からでも素直に自社のノウハウを継承できるメンバーもほしいと思っている。 ・新卒で外に出た子に戻すような施策（奨学金免除など）や社員向けのセミナーなどの教育の場をもっと増やしてほしい。

市民団体・事業者等ヒアリングについて③

分野	概要
創業支援・コワーキング・シェアオフィス	・コワーキングや交流イベントなどの場の運営をきっかけにいろんな人を繋げる活動を発展させていきたい。市内の人と人もそうだが、都心の企業と上野原をつなげるようなことも力をいれていきたい。 ・コワーキング・シェアオフィスだけではなく、コモアしおつでのコーディネートなども行っている。 ・上野原での滞在時間を伸ばして地域へお金を落としてもらうためにも、宿泊施設については今後考えていきたい。
金融機関	・上野原では、中銀がある程度大きな規模の会社(工業地域の企業など)を対応しており、山梨信金・都留信金が地元の小さな商店などを対応と役割が別れている珍しい地域。 ・労働人口の確保が難しいと思うが、もっと工業団地に企業を誘致できると思う。 ・上野原は特殊なエリアに感じており、地域の特性柄、変なしがらみがない(都会でもないが、東京の方を向いている)ので、仕事はしやすい。 ・創業支援は他の支店と比較すると少ない印象がある。 ・採用は苦労しており、都留、大月、都内からが多い。(上野原はほぼない)
商業	・商工会は経営支援3人、支援員3人、全員で7名体制。働き方改革によって、残業を抑えないといけませんが、事業も推進していかないといけなく組織運営としては難しい。 ・職員自体が自分自身の業務に手いっぱい、中期計画の策定もできておらず、積極的に観光面での連携や事業継承なども行えていない。 ・JCとしては、青少年教育に力をいれており、小学生、中学生向けの職業体験を行っている。 ・JCは山梨県内でも210名くらいしかおらず、上野原では9名で活動している。会員の獲得が課題。
農業	・上野原の農業の特徴として、農地が点々としているのであまり大規模にはできない(少量多品目) ・今後はオンライン販売やふるさと納税との連携なども行っていきたい。 ・耕作放棄地をなんとかするためにも、農業に関心を持ってくれる人を増やしていきたい。 ・西原で雑穀の活動をしている兄弟など、特徴的なことをしている方もいるが、跡継ぎがいない状況。 ・農業に関する制度や農薬、補助金の勉強会などを行ってほしい。農薬を適切に使っていくというのが上野原でも広まらないと農家は増えないのではないかと考えている。

市民団体・事業者等ヒアリングについて④

分野	概要
地域づくり	・長寿館は、ここ3年はほぼボランティアで運営している状況。このキャパで既存のものを継続して頑張っても年商で3000万円くらいがMAXの状況。 ・活動メンバーは14名いたが、いまは実質2名体制。地域活動の担い手をどうするのかも大きな課題。 ・建物も築30年が経過しているため、どうしていくのか議論が必要。 ・秋山では、週末移住者、完全移住者、Uターン者の3つを増やしていく方針で活動している。具体的には、農業体験、移住者懇談会、秋山体験会、秋山井戸端会議など。 ・移住のニーズはあるが、貸せる物件がない(空き家はあるが…) ・SNSや広報関係が弱く告知能力が弱いため、地域おこし協力隊も検討していきたい。 ・活動のコアメンバーも本業を持っているので実働時間が限られる。無理をしない活動をしていきたい。 ・地域内の調整に時間がかかる(デジタルの対応がしづらい、根回しの文化、新しいことをやる上での説明など)

2 地域ビジョン



まだ知られていない「まち」「ひと」「しごと」を創出する地域ビジョン

- 国における「デジタル田園都市国家構想総合戦略」や山梨県における「山梨県総合計画」の考え方等を勘案し、地方創生におけるICT（情報通信技術）やデジタル技術等の活用を中心に、少子化・人口減少対策など、戦略的に進めるべき事業や取組を網羅的に整理し、本市の特性を活かした今後の地方創生の取組の指針として総合戦略を策定します。
- 総合戦略に掲げる地域ビジョン（目指すべき地域の将来像）においては、上野原市の最上位計画として、重要課題である少子化・人口減少対策の側面から、上野原市ブランドメッセージ（ビジョン）を具体化・実現を図るものとして設定します。
- 特に、上野原市のブランドメッセージにおいては、市内、市外など情報発信におけるメッセージ性（要素）が強いため、地域ビジョンにおいては、発信されるべき「まち」「ひと」「しごと」を創出し、上野原の強みやポジション（立ち位置、差別化）の確立を目指します。

（参考）地方版総合戦略の策定・効果検証の ための手引き （令和4年 12 月版）より引用

国においては、本構想の実現に向けた取組を円滑に進めるため、法に基づく枠組みを有効に活用していくこととしています。地域においても、それぞれが抱える社会課題の解決を図るため、自らの地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を再構築した上で、地方版総合戦略を改訂するよう努め、同戦略に基づく具体的な地方活性化の取組を果敢に推進することが重要です。取組の推進に当たっては、国の総合戦略で例示されているモデル地域ビジョンや重要施策分野（以下を参照）も参考にしつつ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を地方版総合戦略に記載するよう努めてください。

上野原市ビジョン（ブランドメッセージ）



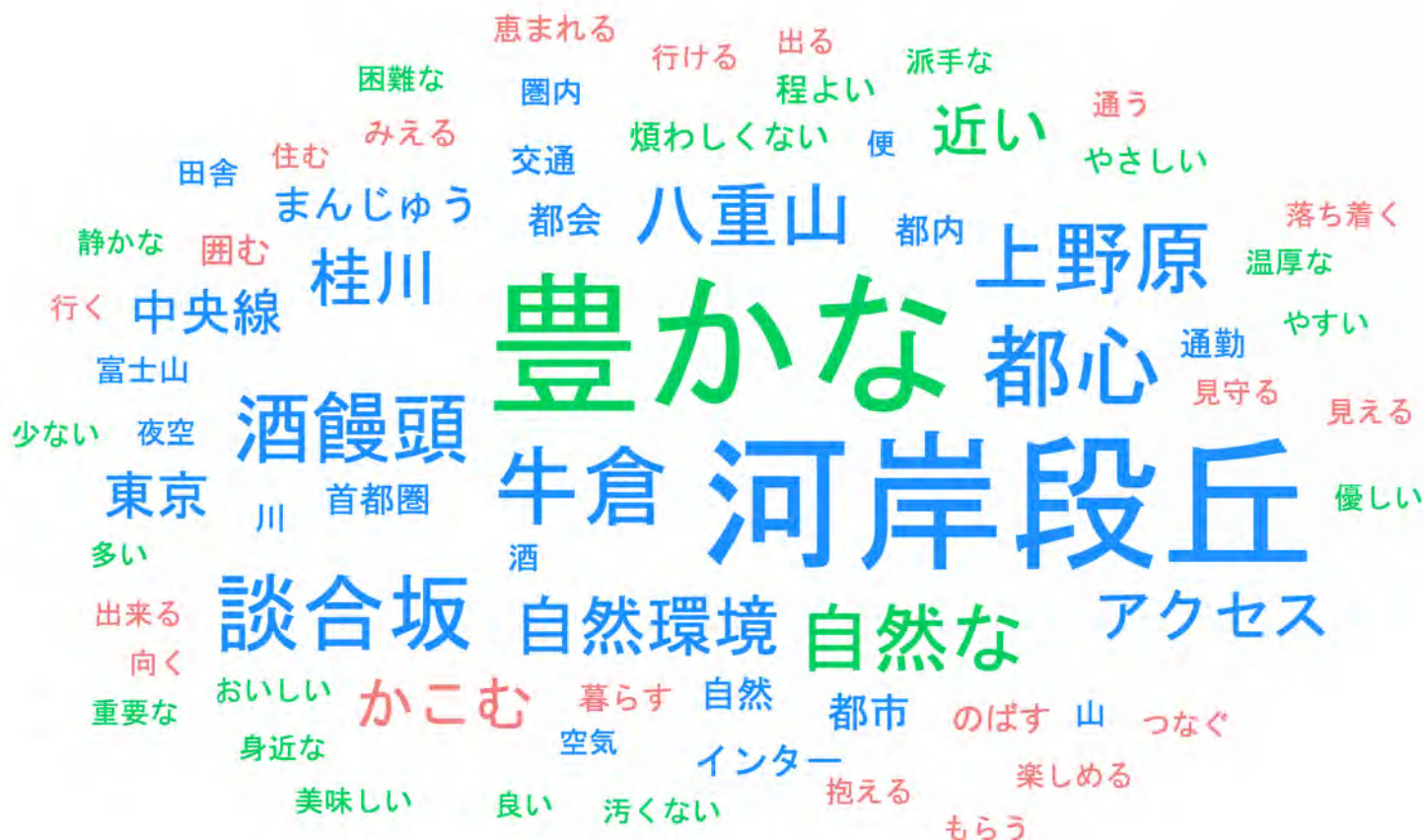
方向性

具体化・発信

地域ビジョン

- 市民アンケートにおける自由記入（問26）を分析しキーワードを抽出すると、都心までの距離と豊かな自然環境（河岸段丘、八重山、桂川など）を自慢として上げています。
- 都心まで近いにも関わらず、日本有数の河岸段丘を背景とした豊かな自然があるというギャップが市民が考える自慢と考えられます。

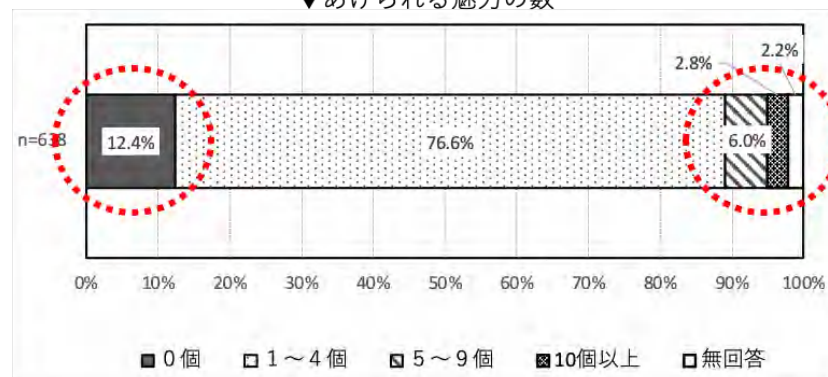
▼上野原市の自慢を1つあげるとすると何か（回答数と文字の大きさが比例）



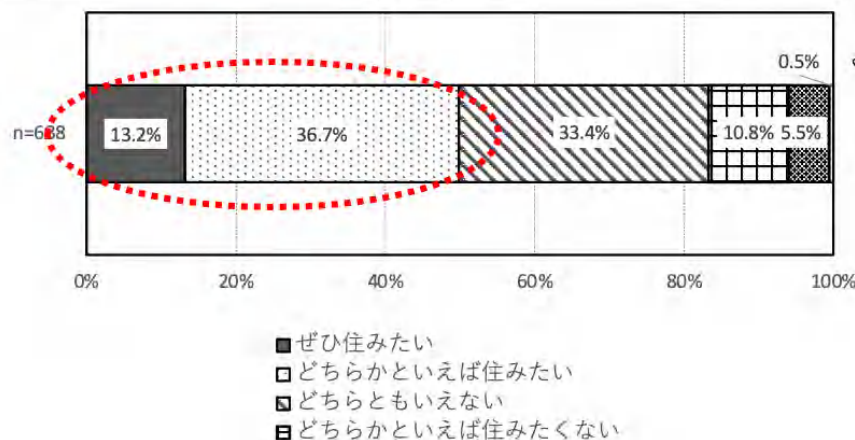
地域ビジョンの方向性②「まちの自慢を実感している人が少ないことが課題」

- 上野原市の魅力の浸透度をみると、あげられる魅力の数が4個以下が89%となっており、上野原のおすすめ度も8点以上の方が7.9%と低くなっています。
- 上野原のまちの魅力の前提として、都心に近いということを上げる方が多く、東京への依存が高いため、上野原独自の自慢について、自信をもって回答したり、他の人へおすすめしたりすることができないことが、居住意向の低さにもつながっていると考えられます。

▼あげられる魅力の数



▼今後の居住意向



▼上野原市のおすすめ度



▼あげられる魅力の数×今後の居住意向

横%		ぜひ住みたい	どちらかといえば住みたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	ぜひ市外へ移りたい	無回答
n(Total)							
Total	638	13.2%	36.7%	33.4%	10.8%	5.5%	0.5%
0個	79	3.8%	13.9%	35.4%	29.1%	17.7%	0.0%
1～4個	489	11.5%	40.7%	34.6%	8.4%	4.3%	0.6%
5～9個	38	36.8%	28.9%	26.3%	7.9%	0.0%	0.0%
10個以上	18	33.3%	44.4%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%
無回答	14	35.7%	35.7%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%

地域ビジョンの方向性③「今ある資源を活かして（循環させて）、「住みたい」「住みやすい」を増やす」

- ・ 市民ワークショップにおいて、参加者の方々が掲げた上野原の将来像は下記のようになっています。
- ・ 山林などの特徴を活かし、上野原ならではの強みをつくり、若者や子どもが住んでいてよかった、これから住みたいという人を増やし、未来に向けて挑戦していくことが求められています。

▼市民ワークショップにおける10年後の上野原の姿（投票結果）

NO	上野原の10年後の姿	投票結果	NO	上野原の10年後の姿	投票結果
1	（都会の人が次に住みたい）住みやすい、ちょうど良い田舎のまち	14	21	食物自給率UPなまち	2
2	山林が80%以上という特徴を生かしたまちづくり、都市部に近い強みを生かしたまち	13	22	自然の中で地域の人が笑顔で協力しあえるまち	2
3	さらに住みやすいスマートなまち IT活用、廃校活用、交通を含めたネットワークが整備されたまち	7	23	若者の起業が盛んなまち	2
4	子ども達が楽しく、わいわいと遊べる場所をつくって、上野原の方々が楽しく暮らせるまち	5	24	様々な体験ができるまち	2
5	豊かな自然とふれあい、自由に子どもたちが遊べるまち	5	25	グローバルな上野原	2
6	若者が住みたいまち→活気あるまちへ	5	26	山や森林の環境が良くなる動きをつくれるまち	1
7	地域で衣・食・住に必要なものがつくられ・使われて循環していくまち	4	27	ここが私の居場所と確信できるようなまち	1
8	心おだやかに、みんなのつながりがあるまち	4	28	楽しいこといっぱい全国の人に注目されるまち	1
9	人に勧められるようなまち	4	29	各々の人が意識・自覚を持てるまち	1
10	自然をそのままに子ども達の活気あふれるまち	3	30	社会教育とモノづくりの盛んな若者が挑戦できるまち	1
11	自信を持って紹介できるまち（魅力を3つ以上言える）	3	31	地域で支え合えるまち	1
12	日本全国の人が名前を知っているまち	3	32	現在ある施設、人材、制度を活かし、活気あるまち	1
13	遠くからでも足を運びたくなる魅力的なまち	3	33	観光客であふれるまち	
14	子ども達のにぎやかな声と高齢者の明るい話し声が上手くマッチングした子育て環境の充実したまち そこに適度に観光客がくるまち	3	34	将来のビジョンが想像しやすいまち 笑顔いっぱい	
15	日本一の人口増加率を誇る 街の中でWAKU WAKUの毎日を過ごせる人達であふれるまち	2	35	今残っている部分をそのまま生き生きさせているまち	
16	楽しくて健康的なまち、魅力的に住みたいまち	2	36	住んでいてよかったなあと思えるまち	
17	農業で食べていけるまち	2	37	若い人たちがずっと住んでいたいまち	
18	自然と共存するまち 市民が上野原にプライドを保てるまち 県内で一番子どもにやさしいまち	2	38	大きな住宅地のまち	
19	満足して暮らせる、あたたかいまち	2	39	坂を苦としない	
20	おもしろ、たのしいシティにしたい	2			

上野原市地域ビジョン「上野原の資源の循環で、未知を価値に変えるまち」

まだ知られていない上野原のヒト・モノ・コトを「未知の資源＝ポテンシャル」と捉え、多様な主体がつながり、上野原の課題解決を行うことで、市内外に挑戦と応援の循環をつくり、未知なる未来も挑戦という価値へ変えていきます。

上野原の 資源の 循環

都市部にも山村部にも近い特性を活かし、多様な主体がつながり、上野原の課題解決を行うことで、市内外に挑戦と応援の循環をつくる

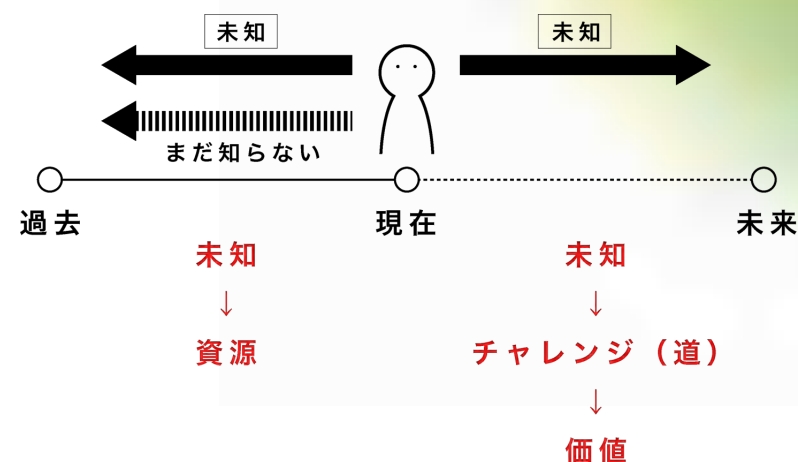
未知を

まだ知られていない上野原の資源（ヒト・モノ・コト）を「未知の資源＝ポテンシャル」と捉え未来へ挑む

価値に

未知なる未来も挑戦（チャレンジ）という価値へ変える

上野原の資源の循環で未知を価値に



3 地域ビジョンの実現に向けた具体的な施策

人口動態からの課題

「出生率の改善」を図るため安心して出会いから出産・子育てまで安心して行える環境づくりと全世代・全市民が活躍する「生涯活躍のまち」への転換が必要です。

- 第2期総合戦略の目標値令和2年人口が22,747人であり、令和2年国勢調査では22,669人となっています。（▲78人）
- 年齢区分では、15歳未満が▲44人、15～64歳が▲8人、65歳以上が▲26人。2018年以降、2017年以前と比較して転出超過数は大きく抑制しています。
- 自然増減は、2018年以降200人台の自然減が続いており、死亡数の増加とともに、出生数も同様に減少しています。
- 第2期総合戦略では、2060年の合計特殊出生率を1.70が目標となっています。2020年では、1.16、2025年で1.20が目標となっていましたが、最新の5ヶ年平均では1.07となっており、特にコロナ禍の2020年以降、大きく低下しています。（人口動態統計特殊報告，厚生労働省）

● 施策展開に向けた課題（市民意向調査等より）

① 自然環境・近便さのPRの促進

- ・ 豊かな自然環境と都心へのアクセスの良さを上手く活用し・PRすることが必要です。
- ・ 立地を活かした働き方の提案やキヌアやせいだいもなどを活かした特産品開発、見晴亭など既存施設を活用した仕事づくりが必要です。

② 働きながら子育てしやすい環境づくり

- ・ 子どもの遊び場や小児の救急医療体制の整備など安心して子育てできる環境づくりが必要です。

③ 地域内の移動利便性の確保

- ・ 事前に予約して決められた時間や決まった場所などではなく、乗りたいときに乗れるなど、利用者視点でのデマンド交通の利便性の向上、タクシー、バスなど公共交通の充実が必要です。

④ 駅周辺、まちなかの賑わいの創出

- ・ 日常の買回りや若者向けの居場所に対する不満が多くなっており、暮らしやすさの向上が必要です。

⑤ 廃校の利活用や教育環境の充実

- ・ 子どもの減少が顕著であるため、上野原で子育てしたくなるような地域の特色を活かした教育環境の整備が必要です。
- ・ 耐震など活用方針が定められない廃校が多くあるため、市内外の民間活力を活かした活用方策の検討を引き続き進めていくことが必要です。

施策展開に向けた視点

人口動態からの課題

▼自然減は拡大、社会減は抑制傾向

社会増減については、平成30年以降、平成29年以前と比較して転出超過数は大きく抑制している。自然増減は、平成30年以降200人台の自然減が続いており、死亡数の増加とともに、出生数も同様に減少。

▼大きく低下する合計特殊出生率

第2期総合戦略では、令和42年の合計特殊出生率を1.70と設定。令和2年では、1.16、令和7年で1.20が目標。最新の5ヶ年平均では1.07となっており、特にコロナ禍の令和2年以降、大きく低下している。

上野原市の強み（ポテンシャル）

▼地勢

- ・桂川や河岸段丘を背景とした豊かな自然環境
- ・市街地エリアの巖・島田・上野原地区と里山エリアの大目・甲東・大鶴・桐原・西原・秋山地区と多様な特色ある地区

▼住みやすさ

- ・都心から電車や車で1時間程度とアクセスがよく通勤・通学に便利
- ・自然災害が少なく、良好な住宅環境

▼地域資源

- ・自然資源（桂川、鶴川、秋山川、河岸段丘等）
- ・歴史資源（旧甲州街道の宿場町、牛倉神社例大祭等）
- ・観光資源（秋山温泉、キャンプ場、マス釣り場、ゴルフ場等）

上野原市の弱み（リスク）

▼地域経済（商工業、農林業）

- ・中心市街地の空洞化、空き店舗の増加
- ・工業団地への立地促進
- ・担い手不足による耕作放棄地の増加
- ・買い物弱者・移動困難者への対応
- ・農産品のブランド化の推進

▼移動

- ・市内の公共交通の改善

▼社会インフラの活用

- ・廃校の利活用の促進
- ・公共施設の再配置

▼医療・子育て

- ・出産時や小児の救急医療体制の改善
- ・保育士の不足

▼財政

- ・税収減と医療・福祉に要する費用の増加

地域の強み（ポテンシャル）を生かし、弱み（リスク）を克服することで、地域の多様な主体とともに「選ばれる地域」へ

これからも選ばれる上野原であるために

- ①上野原を応援し、関わる人を増やす（交流・関係人口の増加、共創・課題解決）
- ②上野原で産まれる活動を増やす（活動人口^{*1}の増加、暮らしの質の向上）
- ③語れる上野原をつくる（地域の魅力を語る人の増加、幸福感の向上）

*1 活動人口：地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりにいきいきと活動する者

施策の骨子（案）

▼地域ビジョン

まだ知らないだけ
上野原

『上野原の資源の循環で、未知を価値に変えるまち』

まだ知られていない上野原のヒト・モノ・コトを「未知の資源＝ポテンシャル」と捉え、多様な主体がつながり、資源を活かした課題解決を行うことで、市内外に挑戦と応援の循環をつくり、未知なる未来も挑戦という価値へ変えていきます。

▼目指す人口

出生率を山梨県平均（1.46）と同程度。移動率を現在よりも20%改善

令和12年の目標人口＝**19,348人**

基本戦略

未来×循環

1 上野原で 子育て・教育の循環

結婚・出産・子育ての安心と楽しみを共有し、人が出会い・磨かれ・育つ未来循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・合計特殊出生率（5年平均）
- ・上野原市全体における子育ての環境や支援への満足度（満足度がやや低い＋低い合計）



基本戦略

挑戦×循環

2 上野原で 人、仕事の循環

上野原の自然環境や立地特性を活かし、新たなチャレンジを応援し、新たな人の流れを生み共創循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・社会増減数（15歳～49歳）
- ・上野原市の情報が十分に伝わっている市民割合（思う＋やや思うの合計）



基本戦略

安心×循環

3 上野原で 暮らしの循環

誰ひとり取り残されことなく、誰もが幸せを実感できる安心循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・上野原市に暮らして幸せだと感じるか（幸福度）
- ・上野原市に住み続けたいと思う市民割合（ぜひ住みたい＋どちらかと言えば住みたいの合計）



重点プログラム | 1「まだ、知らないだけ。」プロジェクト<①広報、情報発信の強化（市内向け）、②市民参加型のシティプロモーションの推進（市外向け）、③総合戦略及び戦略的情報発信の推進、体制の整備>
2 関係人口創出プロジェクト<①地域居住の推進（デュアルライフや副業・リモートワークの推進）、②子育て世帯等の移住の促進、③多様な関わりづくりの創出>
3 官民連携・人材育成プロジェクト<①上野原の特色を活かした学校教育の推進、②官民連携体制の構築（コーディネーターの配置、官民連携プログラムの創設）、③職員の課題解決能力の向上>

1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

- ①出会いから結婚・妊娠出産・子育てへの支援
＜子育て支援センターの充実、子ども医療費の助成、学校給食の無料化など>
- ②ワークライフバランスの実現
＜児童保育所の運営、放課後子ども教室の実施など>

2 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり

- ①郷土愛を育む教育の推進
＜地域を学ぶ総合学習の実施、小中学校でのICT活用など>
- ②連携と協働によって地域を元気にする人材づくり
＜市民活動への助成、市民ワークショップの開催など>

1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり

- ①地域資源を活かした仕事づくり
＜総合的な創業支援の体制づくり、農業の高付加価値化、体験型観光、地域おこし協力隊の採用など>

2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

- ①魅力ある情報発信力の強化
＜シティプロモーション、市の情報発信の強化など>
- ②地域資源を活かした環境整備と賑わいの創出
＜観光施設、公園や登山道の補修・整備など>
- ③移住・定住の促進
＜移住・定住の促進や空き家、空き店舗の活用など>
- ④上野原への資金の流れをつくる
＜ふるさと納税の一層の促進など>

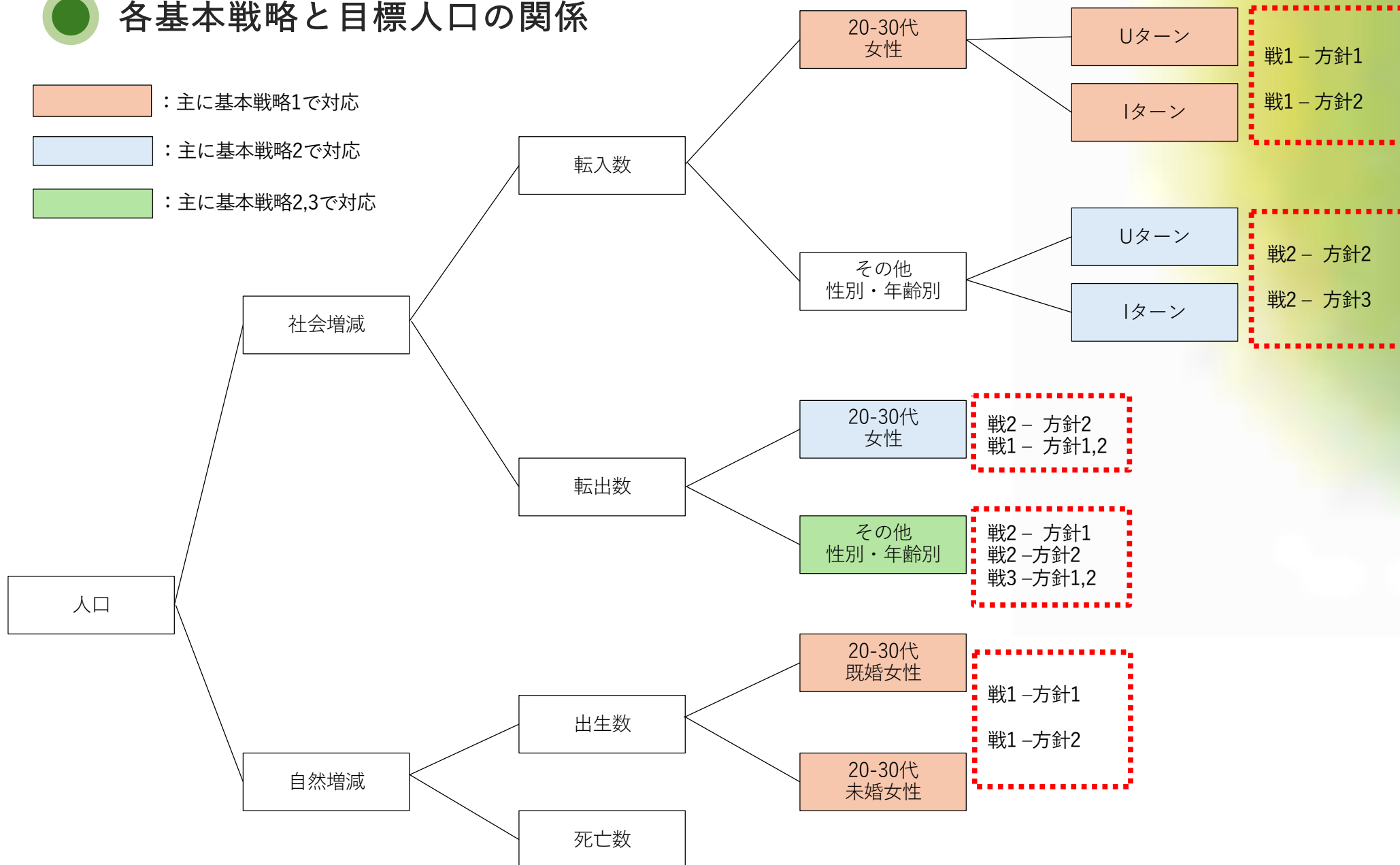
1 時代に合った地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり

- ①人生100年時代を見据えた長寿社会の形成
＜地域医療介護事業者の人材確保、地域包括支援の充実など>
- ②誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備
＜デマンドタクシーや市内循環バスの運行、生活インフラの確保など>
- ③特色を活かした地域づくりの推進
＜地域運営組織の推進・複合化、廃校の利活用など>

基本戦略ごとのターゲット等の整理

	基本戦略1（未来×循環）	基本戦略2（挑戦×循環）	基本戦略3（安心×循環）
地域ビジョン （全体を貫くコンセプト）	上野原の資源の循環で、未知を価値に変えるまち （全体指標：人口目標）		
テーマ	結婚・出産・子育ての安心と楽しみを共有し、人が出会い・磨かれ・育つ未来循環を創る	上野原の自然環境や立地特性を活かし、新たなチャレンジを応援し、新たな人の流れを生み共創循環を創る	誰ひとり取り残されことなく、誰もが幸せを実感できる安心循環を創る
関係する人口政策	出生率増 20-30代女性の転入増、転出抑制	転入増、転出抑制	全市民の転出抑制
分野	子育て（産科小児医療含）、教育、市民協働・官民連携	産業・観光振興、起業支援（人材育成支援含む）、移住定住促進	福祉・医療 生活インフラ（交通、建設、環境など） 地域づくり
戦略スタンス	（守る） ファミリー層の定住 郷土愛の醸成	（攻める） 産業の付加価値化、企業・人材誘致 シティプロモーション	（守る） 持続的な地域の形成 生活インフラの維持・確保
初期ターゲット	市内ファミリー層 20-30代の女性 学生	市内事業者、市内生活者 移住者	市内生活者 全般
目標指標	20-30代女性の転入率 20-30代女性の転出率 地域への郷土愛（魅力度）	転入者数（移住者数） 創業件数 観光客数 情報が伝わっている市民割合	幸福度 上野原に住みたい回答割合
目指す姿（ゴール）	・安心して子育てができている状態 ・子どもたちの地域参画によって、郷土愛が育まれている状態 ・市民協働によって市民活動が活発に行われている状態	・新たな仕事が生まれたり、既存産業が活性化したり、雇用が創出されている状態 ・上野原の魅力や様々な情報が市民に伝わっている状態	・全ての年代が安心して生活できている状態 ・個性ある地域づくりが行われている状態

各基本戦略と目標人口の関係



重点プログラム

本戦略において優先度が高く、重点的・横断的に実施するプログラム

重点プログラム

1 「まだ、知らないだけ。」プロジェクト

上野原市の魅力・資源や市役所の取り組みなどが、市内外に充分に知られていません。そこで、広報や市公式SNSなどを活用し、市民へ向けた情報発信を強化します。また、上野原に関心を持ってもらい、市へ訪れてもらうために市外へ向けたシティプロモーションを市民とともに効果的に行います。

推進にあたっては、庁内横断の広報連絡会議を設置し、外部有識者（アドバイザー）の意見などを基に、戦略的な広報・情報発信を行います。

事業名	事業概要
「まだ、知らないだけ。」プロジェクト事業	市のブランドメッセージ「まだ、知らないだけ。」を発信・浸透を図るため、PR事業や官民連携プロジェクトを実施する事業
シティプロモーション戦略策定事業	上野原市を知ってもらう取組として、庁内横断的な「広報連絡会議」を設置し、上野原市の強みを内外に発信し、本市のイメージを高める戦略的な広報活動を定めた計画の策定を行う事業
情報発信体制の構築事業	戦略的な広報、情報発信を行うため、外部アドバイザー（有識者）を招聘し、庁内横断的な連携体制を構築する事業
マーケティングダッシュボード整備事業	Google検索や各種SNSにおける拡散性などをデータ集約、視覚化し、上野原の情報発信にまつわる数値をすべて一元管理するマーケティングダッシュボードを整備する事業

重点プログラム

本戦略において優先度が高く、重点的・横断的に実施するプログラム

重点プログラム

2 関係人口創出プロジェクト

上野原の最大の強みである都心部へのアクセス性と多様な地域特性を活かした二地域居住の促進や副業人材と地元の企業のマッチングによる関係人口の創出など、上野原市との多様な関わり方を創出し、移住定住を促進します。また、立地適正化計画に基づき、適切に居住誘導を図りながらコンパクトで持続可能なまちづくりを進めます。

事業名	事業概要
二地域居住等促進事業	二地域居住やリモートワーク等を促進するため特定居住促進計画の策定を行い、官民連携により「住まい」・「なりわい」・「コミュニティ」の提供を行う事業
立地適正化計画促進事業	立地適正化計画に定めた、コンパクトで持続可能なまちづくり推進するため、居住地や都市機能の適正な立地、公共交通の充実等を図る事業
ビジネスマッチング支援事業	首都圏の副業人材のスキルやノウハウを、人材不足や経営課題を抱える地元企業をマッチングし課題解決を図る事業
多様な移住促進事業	母子家庭や父子家庭などのひとり親家庭に向けて、住宅の確保や福祉・教育などの問い合わせをワンストップで相談に乗ることができる窓口を設置する事業
DX人材育成事業 (デジタルマーケティング研修事業)	市職員等を対象に、デジタルマーケティングからシティプロモーションの必要性・流れを学ぶ研修を行う事業

重点プログラム

本戦略において優先度が高く、重点的・横断的に実施するプログラム

重点プログラム

3 官民連携・人材育成プロジェクト

本戦略に定めた施策を推進するには多様な人材が必要です。そこで、公民共創コーディネーターを配置し、首都圏企業等との官民連携を図りながら、スピード感をもって地域課題の解決を図ります。また、市内中学校・高校の特色ある学びを推進し上野原市の教育魅力化を図ります。

市内の人材育成についても、首都圏企業等との交流を図りながら、より主体的で課題解決力のある人材の育成を図ります。

事業名	事業概要
教育魅力化支援事業	市内の中学校・高校において地域の特色ある学びを推進するため、魅力化コーディネーターを配置し、総合的な探究の時間の授業の支援や地域と連携したプログラムづくりを行う事業
公民共創コーディネーター配置事業	地域活性化起業人を活用し、市内外の企業等との連携促進を図る事業
地方創生リーダーシップ・プログラム創設事業	行政課題等に対し、首都圏などの大手企業と連携し、プロフェッショナル社員と担当職員が協働で課題解決案を検討し、地方創生のあり方を考える事業

基本戦略 1 子育て・教育の循環

結婚・出産・子育ての安心と楽しみを共有し、人が出会い・磨かれ・育つ未来循環を創る

現状と課題

- 人口減少に対応していくためには、出生数の増加が重要です。上野原市の出生率は、山梨県内でワーストとなっており、また、市民アンケートでは、「妊娠・出産・子育てに対する経済的支援」が満足度が低く、重要度が高い、重点課題領域となっていることから、出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援が必要です。
- 今後、若い世代の出会いをサポートし、安心して子どもを産み、育てることができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行うとともに、医療も含めた地域全体での子育て支援体制の強化が求められています。
- さらに、子育て環境と同様に教育環境も移住先、定住先（転入の促進、転出の抑制）を検討する上で重要視されていることから、上野原市独自の特色ある教育環境の充実が必要です。

基本的方向

- 妊娠・出産・子育てに対する経済的支援については、遠方の分娩施設への交通費等助成や在宅保育に対する支援金を支給するなど、新たに出産・子育てしやすい環境づくりを進めます。
- 市内での出会いや結婚を望む方については、（仮称）「うえのはら出会いサポートセンター」を設置し、結婚相談員と協働しながら出会いから結婚までの相談体制を強化します。
- 学校や家庭・地域が相互に連携して取り組むとともに、幼児期から中学校・高校までを見通した特色ある教育環境づくりを進めます。

数値目標

項目	基準値	目標値（令和12年）
合計特殊出生率（5年平均）	0.89	1.46
上野原市全体における子育ての環境や支援への満足度 （やや低い＋満足度が低いの合計）	41.6%	30.0%

基本戦略 1 子育て・教育の循環

1-1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

具体的施策1-1-① 出会いから結婚・妊娠出産・子育てへの支援

◆重要業績評価指標（K P I）

項 目	基準値	目標値（令和12年）
成婚数	4 組	10組（5 年総計）
各種健康教室等の参加者数、割合 （ママパパ教室、妊婦訪問、ここあの集い）	20.8%	30.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
（仮称）うえのはら出会いサポートセンター事業	上野原市での出会いを希望される方に対し、結婚相談員と連携し安心して出会い・結婚相談できる環境を創出する事業
（仮称）新婚生活応援事業	少子化対策及び子育てしやすいまちづくりを推進するため、39歳以下の者に対して住居費等の支援を行う事業
遠方の分娩施設への交通費等助成事業	出産奨励祝金に代わる事業として安全に安心して妊娠・出産できる環境を整えるため、自宅又は里帰り先から遠方の分娩可能医療機関までの交通費及び宿泊費を一部助成する事業
子育て世帯負担軽減事業（学童保育昼食提供事業）	放課後児童健全育成事業（学童保育）利用における夏休み期間中の昼食を提供することで保護者の負担軽減につなげる事業
こどもの居場所づくり事業	図書館など公共施設を活用し、主に中学生から高校生世代が学習や談話など自由に利用できる居場所を設ける事業
在宅保育支援事業	多様な子育て環境を支援するため、こどもの健全育成と子育てしやすい環境づくりを目的に、保育施設を利用せず家庭で保育している保護者に対し支援する事業

基本戦略1 子育て・教育の循環

1-1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

具体的施策1-1-② ワークライフバランスの実現

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
子育て（教育・保育を含む）に関する支援情報についての満足度	54.5%	60.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
放課後児童健全育成事業	昼間保護者等が労働等により家庭にいない小学生児童に、授業終了後に適切な遊び及び生活の場を与えて、その児童の健全な育成を図る事業
意識改革を推進するための広報・啓発事業	市民や職場に対して意識改革のための広報や啓発を行い、「仕事」と「仕事以外の生活」の両者の調和を図ることにより、両者を充実させるワーク・ライフ・バランスを推進する事業
潜在保育士再就職支援事業	保育現場で働いたことがない、以前働いていたけどブランクがあり自信がない、といった方を対象に実習を通して保育現場への就労を支援する事業
上野原市こども計画策定事業	当市における子育て施策の地域課題やニーズ調査を行い、子育てしやすい環境づくりを実現するための戦略を定め推進する事業

基本戦略1 子育て・教育の循環

1-2 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり

具体的施策1-2-① 郷土愛を育む教育の推進

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
10代・20代の地域の魅力をあげられる数 （5個以上）	16.9%	20.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
文化財常設展示施設運営事業	上野原市教育振興基本計画に基づき、市の郷土に親しみを持てる情報を共有し、体験できる文化財展示施設を管理、運営する事業
GIGAスクール構想事業	GIGAスクール構想に伴うICT環境整備と活用を進めていくため、1人1台パソコンの整備と付属するソフトウェアやその他環境の整備を進めていく事業
地域の自然・伝統文化活用事業	総合学習の時間において、学校活動や郷土料理づくりなど、自然豊かな環境の中で自ら考え行動する力を養う教育活動を実施する事業
学校食育推進事業	小規模の市立小中学校を中心に児童生徒を対象に生産者等の指導の下で農業体験を行い、収穫した野菜を学校給食の食材として取り入れ、生産者との交流給食等を実施し食育の推進を図る事業

基本戦略 1 子育て・教育の循環

1－2 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり

具体的施策1-2-② 連携と協働によって地域を元気にする人材づくり

◆重要業績評価指標（K P I）

項 目	基準値	目標値（令和12年）
「子育て・生活共助コミュニティアプリ」内 における共助数	—	130件

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
市民活動支援事業	協働と人づくりを推進するため、市や地域を良くするために活動する市民団体に対し、その事業費の一部を補助することで地域づくりに繋げる事業
地域住人主導型共助コミュニティ創生事業	子育て世帯の困りごとについて、地域の中で解決できるような仕組みを作るため、頼り合えるコミュニティ形成やその核となるシェア・コンシェルジュを育成する事業

基本戦略 2 人、仕事の循環

上野原の自然環境や立地特性を活かし、新たなチャレンジを応援し、新たな人の流れを生み共創循環を創る

現状と課題

- ・ 都心から60～70km圏に位置し、車でも、電車でも1時間程度でアクセスできる交通利便性の高いまちです。また、上野原駅や市役所周辺の市街地エリアでは、エリア内に桂川が流れるなど、市街地の近くに豊かな自然環境があり、車で30分圏内の里山エリアでは、長寿料理や温泉、雑穀、キャンプなど豊富な地域資源があります。
- ・ 良好な生活環境によって、コロナ禍より移住の問い合わせも増えていますが、賃貸住宅や空き家バンクの登録物件の不足、移住のタイミングのミスマッチなどが課題です。
- ・ また、市民アンケートによる市民の定住意向（住み続けたい割合）も低いため、この環境を活かした創業支援や移住定住支援を促進し、転出抑制を図ることはもちろん、子育て世代や地域に貢献したい層（関係人口）、二地域居住希望者などの移住・定住を促進することが求められています。
- ・ 情報発信については、市の認知度向上をはじめ、市政やまちづくりに関する情報などが市民が十分に届いていないことが課題となっているため、市内外への情報発信を積極的に取り組む必要があります。

基本的方向

- ・ 上野原市にある立地特性や地域資源を活かし、若者世代にとって魅力ある雇用の場を創出していくため、新規地域産業の創出や企業の新規立地、起業支援等に取り組みます。
- ・ 市内外でのスポーツを通じた交流やロケツーリズムを促進し交流人口の拡大を図るほか、サテライトオフィスや移住コーディネーターを活用した多様な関わりづくり（関係人口の創出）を行い、移住定住までのステップを多様に創出します。
- ・ 上野原市においては、市内外への情報発信が最大の課題であるため、WEB（市HP）や広報「うえのはら」、市公式LINEなどのSNSなどを戦略的・積極的に活用し、誰もが等しく情報にアクセスできる環境整備を行います。

基本戦略 2 人、仕事の循環

上野原の自然環境や立地特性を活かし、新たなチャレンジを応援し、新たな人の流れを生み共創循環を創る

数値目標

項目	基準値	目標値（令和12年）
社会増減数（15歳～49歳）	-67人（R5年度）	-122人
上野原市の情報が十分に伝わっている市民割合	25.7%	30.0%

基本戦略 2 人・仕事の循環

2-1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり

具体的施策2-1-① 地域資源を活かした仕事づくり

◆重要業績評価指標（K P I）

項 目	基準値	目標値（令和12年）
新規創業件数	3 件	10件（5 年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
起業・創業支援事業	上野原市商工会と連携し、創業希望者や起業後間もない人を対象に、起業・創業に向けた「創業セミナー」を実施する事業
中小企業・小規模企業等支援事業	市内中小規模事業者への課題抽出のアンケートの実施と、返済利息の一部を補助することで、経営安定・経営強化を支援する事業
新規就農者育成総合対策事業	就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、45歳以下の新規就農者に対して、1人年150万円（最長3年間）を補助する事業
地域おこし協力隊事業（地域づくり）	産業や地域振興を担う地域おこし協力隊を採用し、地域の活性化等を図る事業
鳥獣害対策事業	猿や猪等の有害鳥獣から農業被害を防ぐため、巡視員や猟友会への支援を行う事業

基本戦略 2 人・仕事の循環

2-2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

具体的施策2-2-① 魅力ある情報発信力の強化

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
広報うえのはらを毎月見ている人の割合 （市民アンケート）	40.6%	50.0%
市ホームページを見ている人の割合 （市民アンケート）	33.5%	40.0%
市SNSを見ている人の割合 （市民アンケート）	27.0%	35.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
上野原市PR事業	観光を含めた見やすく分かりやすいホームページの作成や市の魅力を伝える動画の作成、フェイスブック等のSNSを活用した市のPRにより交流人口をふやす事業
上野原ポータル（WEBサイト改修）事業	年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが等しく情報にアクセスできるUI・UXのWEBサイト（ポータルサイト）に改修する事業
ロケツーリズム推進事業	撮影場所等の情報をホームページ等で一元的に公開し、積極的に映画やドラマ撮影の誘致を行うことで、交流人口の増加や市民の誇りを醸成する事業

基本戦略 2 人・仕事の循環

2-2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

具体的施策2-2-② 地域資源を活かした環境整備と賑わいの創出

◆重要業績評価指標（K P I）

項 目	基準値	目標値（令和12年）
観光入込客数	251,123（R 5 年度）	500,000

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
桂川水辺魅力化事業	水辺に興味を持つ市民や企業、行政が一体となって、桂川河川敷などの水辺の新しい活用の可能性を検討する事業
交流施設等運営事業	市の交流施設であるミューの森や緑と太陽の丘キャンプ場、秋山温泉施設、ふるさと長寿館施設等の運営及び維持管理等を行う事業
スポーツ施設整備事業	桂川野球場やソフトボール球場、秋山観光スポーツ広場等の市営運動施設を維持管理する事業
推奨登山道ルート等補修整備事業	登山道の危険箇所の改修、倒木処理、除草、観光案内板の整備等を行い、登山道における安全性の向上を図る事業

基本戦略 2 人・仕事の循環

2-2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

具体的施策2-2-③ 移住・定住の促進

◆重要業績評価指標（K P I）

項 目	基準値	目標値（令和12年）
移住者数 （市の移住施策を経て移住した数）	63人（5年平均）	65人（5年平均）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
サテライトオフィス等施設を活用した交流事業	上野原駅北口の見晴亭を活用し、学びに繋がるイベント等を開催することで若者や企業が交流できる機会を創出する事業
地域おこし協力隊事業（移住定住）	交流・関係人口の創出や人材育成などを担う地域おこし協力隊を採用し、上野原駅周辺を中心に移住定住の促進を図る事業
移住コーディネーター活動事業	移住コーディネーターを配置し、移住の相談、空き家バンクの運営、交流イベント開催等の移住・定住に関する支援を行う事業
移住促進情報発信事業	移住者等を紹介する動画をSNS等で情報発信し、移住を促進したり、移住者に対する理解を深め、空き家バンク登録へ繋げる事業
移住促進補助事業	移住・定住を促進するため、空き家・空き店舗バンクフォーム補助金や移住者住宅取得補助金などの各種補助事業

基本戦略 2 人・仕事の循環

2-2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

具体的施策2-2-④ 上野原への資金の流れをつくる

◆重要業績評価指標（K P I）

項目	基準値	目標値（令和12年）
ふるさと納税額	84,287千円（R5年度）	100,000千円以上

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
ふるさと納税推進事業	ふるさと納税をPRし、寄附額の増額と特産品による市の知名度向上、体験コースの利用による交流人口の増加を図る事業
ふるさと納税特産品開発事業費補助金交付事業	ふるさと納税の特産品の開発、改良などに取り組む事業者を支援するため、一定の要件に該当する事業に補助金を交付する事業
企業版ふるさと納税推進事業 ※国の方針を確認し掲載	企業版ふるさと納税をPRし、地方創生プロジェクトの推進を図る事業

基本戦略 3 暮らしの循環

誰ひとり取り残されることなく、誰もが幸せを実感できる安心循環を創る

現状と課題

- 今後予測される人口減少を抑制させていく一方で、全国的な人口減少の中で、上野原市の将来人口も現状よりも厳しくなっていくことが予想されるため、それに備え、適応していく発想も必要です。都市の大きさやモノの豊富さのみに価値観を見出すのではなく、上野原市に暮らす一人ひとりの視点を大切にしながら、誰もが互いの尊厳を尊重し合うことのできる多様性に基づくまちづくりが求められます。

基本的方向

- 起伏に富んだ地形を有する上野原市では、いつでもどこでも快適な移動を実現する地域公共交通の充実や安全で安心な暮らしを守る地域防災・防犯体制づくり、生活インフラの確保など、さらに充実させていきます。
- 今後の人口減少・少子高齢化に適応した持続可能な地域をつくるため、日常生活サービスの立地の集約や移動の利便性の確保、効率的を図るため、地域ごとに主体となる協議会等を設立し、主体的に将来像を描き、計画に基づき実行していくための仕組みづくりを行います。併せて、廃校となった学校など公共施設の利活用の更なる推進を図ります。
- さらに、人生100年時代を見据えて、全ての人が生き生きと、生涯にわたって活躍してもらうために健康づくりを推進します。

数値目標

項目	基準値	目標値（令和12年）
上野原市に暮らして幸せだと感じるか（幸福度）	6.28	6.47
上野原市に住み続けたいと思う市民割合 （ぜひ住みたい＋どちらかと言えば住みたいの合計）	49.8%	76.5%

基本戦略3 暮らしの循環

3-1 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり

具体的施策3-1-① 人生100年時代を見据えた長寿社会の形成

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
介護予防の場の拡充	1か所（R6年度）	15か所（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
介護人材確保事業	介護職員と介護支援専門員の確保と資格取得を支援するために介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護支援専門員、主任介護支援専門員の取得と更新に係る研修費用の一部を補助する事業
地域医療介護連携事業	地域包括ケアシステムにおける医療介護の連携体制作りとして、これまで推進してきた多職種が情報を共有できるシステムの利用を推進し、医療介護に関わる専門職が相談相談できる体制づくりを行う事業
地域支援事業	介護予防を目的とした、介護予防・日常生活支援総合事業、地域支援事業の包括的支援・任意事業を実施する事業

基本戦略3 暮らしの循環

3-1 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり

具体的施策3-1-② 誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
デマンドタクシーの利用者数	10,288人（R5年度）	50,000人（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
防災リーダー養成事業	「自助」、「共助」による地域防災力向上のため、地域防災リーダーを養成する事業
書かない窓口推進事業	マイナンバーカードから情報を読み取り、カード更新や各種申請書を自動印刷できる端末を導入することで、来庁者の利便性向上を図り、DXを推進する事業
地域交通充実事業 （デマンドタクシー）	市民の移動手段の確保や交通空白地域の解消のため、「地域公共交通活性化協議会」を設置し市内事業者と連携しデマンドタクシーを運行する事業
簡易水道量水器交換事業	秋山・仲間川地区の水道メータをスマートメータに取替えを行い、業務の効率化を図るとともに、市民サービスの向上を図る事業
上野原市高齢者外出支援事業	市内のバスを利用する高齢者に対し、シルバー定期券の費用の一部を補助し、公共交通の利用促進と高齢者の自立した生活を支援するための事業
上野原市公共施設等総合管理計画改訂及び公共施設マネジメント計画策定業務	公共施設の用途別・地域別の配置状況、利用状況及び各施設の劣化度等を整理し、継続活用すべき公共施設の長寿命化を推進するための指針を作成する事業

基本戦略3 暮らしの循環

3-1 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり

具体的施策3-1-③ 特色を活かした地域づくりの推進

◆重要業績評価指標（K P I）

項目	基準値	目標値（令和12年）
地域運営組織の設立数	—	3団体（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
地域活性化策調査研究事業	近隣の高校や大学などの学校と連携して、上野原市をフィールドに学生目線での地域資源の発掘や地域活性化に繋がる提案をするための調査研究事業
地域運営モデル事業	地域住民や地域団体の参画と協働の推進を図りながら、自主的、自立的に地域課題の解決に向けた活動を行う地域運営組織等の設立（組織の立ち上げ、地域計画の策定等）を支援する事業

デジタル実装

本戦略は国の方針に基づき地域の個性を生かしながら、デジタルの力によって地方創生の取り組みを加速化・深化させることを目的としており、今後デジタルの力を活用した地方創生施策を、政策部門とデジタル（情報）部門を始め、市内の各部局で連携して検討し、取り組みを推進してまいります。また、民間事業者等のノウハウを活用するなど、より質の高い施策に取り組んでいきます。

◆基本的の方向性

①デジタル基盤の整備

地域の生活基盤やコミュニティを支え、維持するために、デジタルを活用したサービス提供に必要な基盤を整備する。

上野原市DX推進計画の推進／デジタルインフラ整備（スマホ市役所の推進）／マイナンバーカード利活用 等

②デジタル人材の育成・確保

デジタル化を推進していく上では、デジタル技術やデータを効果的に利活用できる人材が欠かせないため、DX推進を牽引する「デジタル人材」の育成を促進する。

ICT教育の推進／デジタル人材育成の推進 等

③デジタルデバйд対策

すべての人にやさしいデジタル化の推進において、スマートフォンやパソコンを使いこなすことが難しい層への「デジタルデバйд」（情報格差）対策が必要であり、デジタル機器に不慣れな市民への支援として、デジタル化のメリットを分かりやすく伝えるとともに、デジタル機器に触れる機会や学ぶ場の提供を促進する。

デジタル支援体制の充実／デジタルに関する各種講座の開催 等